

令和7年度
子ども・子育て支援調査研究事業

調査研究報告書

調査研究課題番号
特会1-06

妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）の効果的な実施に向けた
周知方法及びフィードバック方法に関する調査研究

令和8年3月

株式会社JTB
霞が関事業部

目次

1. 事業要旨・目的	2
2. 事業運営計画	5
2-1. 事業実施体制	6
2-2. 事業実施スケジュール	7
3. 調査内容・結果	9
3-1. 自治体へのヒアリング	10
3-2. 利用者アンケート調査票の作成	25
3-3. 国の事業紹介動画の作成	30
3-4. プレ面談の実施	39
3-5. 検討委員会の開催	42
4. 事業全体を通しての分析・考察	66
5. 提言・今後の課題	71
6. 成果物について	74
7. 参考資料	78

01.

事業要旨・目的

1. 事業要旨・目的

◆事業背景

妊婦等包括相談支援事業は、令和4年度第2次補正予算において創設された出産・子育て応援交付金において、10万円相当の経済的支援と併せて措置された伴走型相談支援を端緒とし、令和7年度以降は児童福祉法に基づく事業として実施されるものである。伴走型相談支援は、妊婦・子育て家庭を対象に、妊娠時から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じ、必要な支援につなぐ重要な取組であり、その実施に当たっては、これまでに、調査研究を通じて自治体の実施状況を調査するとともに、自治体が一定水準の支援を提供するためのガイドラインを策定した。

◆事業実施目的

伴走型相談支援の取組を更に充実させ、すべての妊婦がより安心して出産・子育てができる相談支援環境を構築していくため、自治体の規模や組織体制に応じた効果的な仕組みや、デジタル技術を活用した効率的な事例等を分析し、こうした事例等を全国の自治体に普及させていく必要がある。

◆仮説

全国の自治体における効果的な支援事例や、規模や相談体制が異なる自治体の取組状況を調査・分析し、全国の自治体で活用可能な利用者アンケート調査票、国の事業紹介動画および伴走者向け研修動画を作成することで、効果的な取組事例の横展開が進み、伴走者のスキルや面談の質の向上につながると考えられる。その結果、妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）がより質の高いかたちで全国に定着し、安心して出産・子育てができる生活環境の整備につながるのではないかと考えられる。

1. 事業要旨・目的

◆事業概要

本目的達成に資するため、本事業では多角的な調査・分析を実施し、3つの主要な成果物を創出した。これら成果物は、それぞれ異なる側面から本事業の目標達成を支援するとともに、今後取り組みを充実していくうえで重要な基盤となる。各成果物の概要は以下の通りである。

【成果物①】利用者アンケート調査票（自治体が活用するアンケート）

本成果物は、伴走者のスキルアップ、面談等のクオリティアップ、相談体制の強化、効果的かつ効率的な実施を目的とする。具体的には、自治体へのヒアリングやプレ面談、検討委員会でのブラッシュアップを実施した。これにより、全国の自治体に適用可能なアンケート調査票が作成された。詳細については、本報告書の「3-2. 利用者アンケート調査票の作成」を参照されたい。

【成果物②】妊婦との面談時に視聴いただく動画（ショート版動画）

本成果物は、国の子育て支援事業の紹介を中心とし、相談者の不安を払拭でき、支援策への理解を深められることを目的とする。具体的には、絵コンテを用いて、動画の内容・ナレーション・紹介する支援制度等について協議し、最終的には検討委員会や実際の妊婦・パートナーに確認いただいた。これにより、妊婦との面談時に視聴いただく動画が得られた。詳細については、本報告書の「3-3. 国の事業紹介動画の作成」を参照されたい。

【成果物③】伴走者の能力・面談の質向上の為の研修動画（ロング版動画）

本成果物は、面談を実施する職員の知識や経験に関わらず妊婦に国や自治体の制度説明をする際に活用されることで、妊婦への必要最低限の情報提供を担保するとともに、伴走者のスキルアップを目的とする。具体的には、絵コンテを用いて、動画の内容・ナレーション・紹介する支援制度等について、検討委員会にて協議し、内容を確定させた。これにより、伴走者のスキル向上に資する10分程度の動画が得られた。詳細については、本報告書の「3-3. 国の事業紹介動画の作成」を参照されたい。

02.

事業運営計画

2-1. 事業実施体制

◆事業実施体制

アンケート調査票の作成や動画制作を行う上で、知見のある有識者からの意見は必須となる。また、本分野に知見のある有識者のみならず、幅広い領域（アンケート調査分野、企業の人事担当（面談の専門家）、教育研修、人材育成等）から有識者を選定し、意見集約を実施する。本事業においては、大学教授の倉石氏を座長に据え、以下6名の方に委員へ就任いただいた。

【検討委員会 委員名簿】

氏名	役職	所属
倉石 哲也	座長	武庫川女子大学
鈴木 良照	委員	学校法人 国際文化アカデミー
関 まりか	委員	株式会社 MamaWell
中條 美奈子	委員	NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会 / 認定 NPO 法人マミーズ・ネット
西田 真紀	委員	名古屋市子ども青少年局 子育て支援課
渡辺 綾夏	委員	東京都 板橋区健康推進課母子保健係

※座長を除き、五十音順

【事務局 名簿】

氏名	役職	所属
黒主 康貴	プロジェクト マネージャー	株式会社JTB 霞が関事業部
福原 悠花		株式会社JTB 霞が関事業部
中西 亮輔		株式会社JTB 霞が関事業部

2-2. 事業実施スケジュール

◆事業全体スケジュール

実施月	実施内容
2025年7月	キックオフミーティング 有識者選定 ヒアリング自治体選定 委嘱依頼 委員との個別ミーティング 検討委員会 日程調整
2025年8月	検討委員会 日程調整 自治体へのヒアリング実施開始 アンケート調査票案の作成開始
2025年9月	アンケート調査票案の修正 自治体へのヒアリング実施 ロング版動画絵コンテ案の作成開始
2025年10月	自治体へのヒアリング実施 アンケート調査票案の修正 ロング版動画絵コンテ案の修正
2025年11月	ロング版動画絵コンテ案の修正 ショート版動画絵コンテ案の修正 アンケート調査票案の修正 ロング版動画制作開始 ショート版動画制作開始
2025年12月	アンケート調査仮完成 ロング版・ショート版動画の修正 プレ面談について自治体への打診開始
2026年1月	ロング版動画撮影実施 ショート版動画ナレーション収録 ロング版・ショート版動画の修正 プレ面談 日程調整
2026年2月	プレ面談の実施 ロング版・ショート版動画の修正
2026年3月	成果物作成開始 成果物作成完了・納品 事業完了

2-2. 事業実施スケジュール

◆検討委員会スケジュール

回数	開催日	主な検討事項
第1回	2025年9月16日（火）	<ul style="list-style-type: none">・事業の目的の共有・本事業の取組内容の共有・成果物の共有・自治体ヒアリング調査、利用者アンケートに関する協議・動画の構成案に関する協議
第2回	2025年10月15日（水）	<ul style="list-style-type: none">・自治体ヒアリング調査の報告（途中経過）・アンケート調査票の仕様・設問内容に関する協議・各動画の仕様・方針確認
第3回	2025年11月10日（月）	<ul style="list-style-type: none">・自治体ヒアリングの結果報告（最終）・アンケート調査票の設問内容に関する協議・各動画の構成・字コンテ確認と意見収集・プレ面談実施に関する手法の協議
第4回	2026年1月30日（金）	<ul style="list-style-type: none">・アンケート調査票の内容確認（仮確定）・各動画の絵コンテ確認と意見収集・プレ面談の実施方法について意見収集
第5回	2026年3月9日（月）	<ul style="list-style-type: none">・ショート版動画の内容確認・プレ面談の結果報告・ショート版動画、アンケート調査票の内容確定（委員の承諾）・ロング版動画の内容確定（委員の承諾）



03.

調査内容・結果

3-1. 自治体へのヒアリング

これまで実施した調査研究によって得られた自治体の情報を活用し、伴走者のスキルアップや面談のクオリティの向上に資する先進的な取組についてヒアリングを実施する。

◆調査概要

昨年こども家庭庁にて実施した自治体アンケート調査結果から、「伴走型相談支援の質の改善のために利用者へのアンケートを実施して改善に向けて取り組んでいる。」と回答した全国117の自治体のうち、先進的取組をされている自治体などを中心にこども家庭庁と協議の上、選定を行った。

◆調査目的

本調査は、伴走型相談支援の現状と課題を多角的に把握することを目的とする。具体的には、自治体における伴走型相談支援の実施体制、相談支援の内容・プロセス、出産・子育て応援交付金の活用状況、およびデジタル技術の活用状況等を明らかにするとともに、自治体規模や特性に応じた効果的な仕組みや優良事例を抽出し、今後の普及展開に資する知見を得る。

◆調査対象

選定された自治体の実務を担う伴走型相談支援担当者

*協力いただいた自治体一覧

- 01_東京都 町田市（対面実施）
- 02_東京都 板橋区（対面実施）
- 03_埼玉県 志木市（対面実施）
- 04_埼玉県 毛呂山町（オンライン実施）
- 05_茨城県 つくば市（対面実施）
- 06_茨城県 守谷市（対面実施）
- 07_茨城県 つくばみらい市（オンライン実施）
- 08_千葉県 松戸市（オンライン実施）
- 09_千葉県 富津市（オンライン実施）
- 10_三重県 松阪市（オンライン実施）
- 11_大阪府 寝屋川市（オンライン実施）
- 12_奈良県 生駒市（オンライン実施）
- 13_広島県 呉市（オンライン実施）
- 14_広島県 福山市（オンライン実施）
- 15_鹿児島県 阿久根市（オンライン実施）

3-1. 自治体へのヒアリング

◆調査期間

本調査は、令和7年8月から令和7年11月までの期間に実施した。

◆調査手法

➤ ヒアリング調査

昨年こども家庭庁にて実施した自治体アンケート調査結果にて「伴走型相談支援の質の改善のために 利用者へのアンケートを実施して改善に向けて取り組んでいる。」と回答した全国117自治体をリスト化し、各自治体の伴走支援の取組を事務局にて調査。

各自治体の取組についての調査は各自治体のHPにて確認。

他自治体の参考に資するような独自の取組等を行っている自治体を40件程、抽出し、その中からヒアリング調査対象自治体選定についてこども家庭庁と協議を行った。

当初、ヒアリング調査対象の自治体は「30」を想定し選定していたが、一部調整が難しく、最終的には10ページに記載の「15」自治体に対しヒアリング調査を実施した。

ヒアリング調査実施方式については、はじめの5自治体については、対面形式にて実施。対面で行った意図として、事務局側の伴走型相談支援の実状等についての更なる理解を深める目的とした。

関東近郊の自治体に対し、対面形式にて調査を実施し、その後はオンライン形式に切り替え、地方の自治体に対しても調査の枠を広げた。

◆内容・結果

事前にヒアリング項目について、こども家庭庁と協議を実施。

28の設問案を検討。ヒアリングを行う自治体には事前に共有を行った。

※ヒアリングの項目は自治体に合わせて一部修正を実施。

ヒアリング項目は次ページ。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング項目

◆面談に関する質問

1. 面談の実施状況

Q1. 追加面談・情報発信について

国のガイドラインでは、妊娠届出時、妊娠後期、出産後の3回の面談に加え、随時相談受付等の継続的な実施が望ましいとされています。これら3回の面談の間に、追加の面談やプッシュ型の情報発信は行っていますか。

2. 面談の委託状況

Q2. 面談の民間委託について

面談を民間団体等に委託していますか。委託している場合、その目的、期待する効果、地域資源の活用方法、および課題について教えてください。

Q3. 委託先への指示について

(Q2で「はい」と回答した場合) 面談を委託されている場合、委託先の面談担当者に対して具体的にどのような指示をしていますか。また、指示する際の注意点があれば教えてください。

3. 面談体制と担当者について

Q4. 担当者の一貫性について

一人の妊婦に対して、毎回同じ方が面談を担当していますか。

Q5. 面談時の配慮とマニュアルについて

面談時、相手に配慮するために、相手の様子を観察した上で、話すスピードや言葉遣いを変えるなどの工夫は、個人の裁量で行っていますか、それとも組織的にマニュアル等がありますか。

Q6. 専門職以外の面談担当者について

面談は基本的に専門職の方が実施されていると思いますが、専門職以外の方が実施することはありますか。

Q7. 人員体制と役割分担について

伴走型相談支援に関わる人員体制(人数、職種、専門職の配置など)はどのようになっていますか。グループ等で実施している場合の役割分担についても教えてください。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング項目

4. デジタル技術の活用

Q8. デジタル技術の活用状況について

面談の予約や記録、情報提供などにデジタル技術は活用されていますか。

5. 情報提供と継続支援

Q9. 地域の子育て支援資源の情報提供について

妊娠後期（8か月）面談の際に、地域の子育て支援資源へ早期につなげることが適切とされています。妊娠届出時（1回目面談時）には、妊婦の方が妊娠後期や出産後のことに関してあまり考えていないことも多いかと思いますが、必要なタイミングで必要な情報が得られるように再度伝える等の工夫はしていますか。

Q10. 支援資源活用状況の把握について

3回目の面談終了後も、地域の支援資源活用につながったかどうかをどのように把握していますか。

Q11. 3回目面談後の継続支援について

出産後に実施する3回目の面談終了後も、継続した支援はできていますか。

Q12. 地域資源情報の共有体制について

面談担当者が常に最新の情報を把握できるよう、面談担当者が地域資源の最新情報（例：〇〇地区に産後ケアの施設ができた、こどもを預かる民間事業者があるなど）を把握する仕組みはありますか。

Q13. パートナー・家族への支援について

パートナーやご家族に関する支援や情報提供は行っていますか。妊婦の方が抱える出産や育児への不安に対し、育児をしながらの買い物、家事の分担、パートナーとの関係など、生活全体に関わる支援や相談体制について、実施していますか。

6. 面談方法

Q14. オンライン面談の実施と留意点について

面談は原則対面で実施されていると思いますが、オンラインで実施する場合はありますか。オンラインで実施する場合、どのようなことに気を付けていますか。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング項目

7. 評価と改善

Q15. 今後の強化・改善点について

伴走型相談支援に関して、今後強化・改善していきたい点がありますか。

(例：人員体制、面談回数、情報発信など)

Q16. 支援内容に関する要望の確認について

「こんな支援があって欲しい」という声や、既存の支援内容に関する要望等を確認していますか。

Q17. 面談担当者のスキルアップについて

面談担当者の方に対し、スキルアップのための取り組みをしていますか。

8. 予算と連携

Q18. 子育て支援への予算配分について

自治体組織内部で子育て支援への予算配分において力を入れている点や工夫されている点などがあれば、可能な範囲で教えてください。

Q19. 外国人妊婦・子育て世代への対応について

外国人の妊婦の方や子育て世代の方々の移住が増えていると伺っておりますが、日本語が十分に話せない方々への対応について、どのような取り組みをされていますか。また、現在課題となっている点やNPO団体等他の自治体との連携はありますか。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング項目

◆面談実施後の相談者アンケートに関する質問

1. アンケートの実施状況

Q1. 面談後のアンケート実施タイミングについて

面談実施後の相談者アンケートはどのタイミングで実施していますか。
1回目、2回目、3回目のどの面談終了時に実施していますか。または、全ての面談後に実施していますか。

2. 面談タイミングと継続支援について

Q2. 面談タイミングの適切性・利用希望度の確認について

①「妊娠届出時」「妊娠後期」「出産後」の3回の面談以外に独自で面談を実施している場合：

アンケート内で面談のタイミングが適切か確認していますか。また、伴走型相談支援（4回目の面談等）について、3回目までのアンケートで利用希望度を確認していますか。

②「妊娠届出時」「妊娠後期」「出産後」の3回の面談のみ実施している場合：

上記3回以外のタイミングで面談の希望可否をアンケート上で確認していますか。

3. 面談形式の希望について

Q3. 対面以外の面談形式の希望確認について 原則面談は対面で実施されていると思いますが、対面以外の形式の希望可否をアンケート内で確認していますか。

4. 面談担当者への評価とフィードバック

Q4. 面談担当者への評価と共有方法について

面談担当者（面談を実施された自治体様のご担当者様）の面談時の対応について、利用者からの評価をアンケート等で聞き取っていますか。また、その内容はどのように組織内で共有・フィードバックされていますか。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング項目

5. 相談者の不安・要望の把握

Q5. 面談後の相談者の不安・懸念事項の確認について

面談終了後も、相談者が気にしている点、不安に思っている点等を面談実施後のアンケートで確認していますか。

Q6. 利用者の情報要望の確認について

（「面談に関する質問」Q16で「いいえ」と答えた場合）「こんな情報をもっと知りたい」といった利用者の要望（希望）は面談実施後のアンケート等で確認されていますか。

6. 面談担当者の一貫性に関する評価

Q7. 面談担当者の一貫性に関する評価について

（「面談に関する質問」Q4で「はい」と答えた場合）
担当者が変わらないことに関しての利用者からの評価（フィードバック）をアンケート等で確認をしていますか。

（「面談に関する質問」Q4で「いいえ」と答えた場合）
担当者が変わることにに関しての利用者からの評価（フィードバック）をアンケート等で確認をしていますか。

7. 利用者の声の活用と発信

Q8. 利用者の声の新しい取り組みへの活用について

アンケートで得た利用者の声を新しい取り組み等（自治体独自の取り組み）に活かしたことはありますか。

Q9. 利用者の声の反映と発信について

（Q8で「はい」と回答した場合）利用者の声を反映させて改善したことや開始した取り組み（事業）等を利用者側に向けて発信はしていますか。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング結果

各設問における自治体の回答から重複する内容を除いた上で、要点を抽出し以下にて整理する。

◆面談に関する質問

1. 面談の実施状況

Q1. 追加面談・情報発信について

- ・デジタル配信だった子育てガイドブックを紙での配布に戻した。この冊子には子育てサービス全体を掲載しており、対面や電話面談時にデジタル冊子での案内が使いにくかったこと、また紙の場合、他団体に手渡すことができるため使いやすかったことが理由である。
- ・母子手帳アプリで週数に応じたタイムリーな情報発信を行っている。

2. 面談の委託状況

Q2. 面談の民間委託について

- ・地域資源の開拓を目的に面談の委託を開始した自治体が複数あった。
- ・三重県松阪市では、2回目の面談をNPO団体に委託している。委託内容には「面談担当者への研修実施」を含めており、委託先へ実地研修を求めている。同市では、委託を進めるうえで難しかった点として、以下の3点を挙げていた。

- ①全員が専門職員であることが理想だが、そういった団体はほぼないため、ファミリー・サポート・センターなどの既存の団体を育てていかざるを得なかったこと。
- ②個人情報の管理が難しかったこと。
- ③地区担当が面談を行う人を管理すること。

・茨城県つくばみらい市では、年間3回の研修会を開催し、講師の招聘や各拠点への講師の巡回によって支援体制を整えていた。

委託事業者が変わることによる方針の変更やスタッフの出入りがあると個人のスキル差が出てしまうことを課題として挙げていた。

・千葉県松戸市では、出産前から身近に相談先があることを知ってもらうため、地域子育て支援拠点28か所で面談を実施していた。面談の取りまとめなど保健師の事務負担が大きいことは課題だが、安心して子育てができる環境整備の充実のために今後も続けていく。

3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング結果

Q3. 委託先への指示について

- ・定例会で研修を行い、レクチャー、情報・スキルの共有を行っている。
- ・委託先と共有するための専用ファイルを作成し、必要な情報を掲載したうえで、面談時に活用している。

3. 面談体制と担当者について

Q4. 面談の担当制について

- ・基本的にはどの自治体も担当制は実施していない。
- ・特定妊婦は、なかなか心を開けない場合も多いため、時間をかけて距離を縮める必要があり、地区担当（毎回同じ）が担当するケースが多い。

Q5. 面談時の配慮とマニュアルについて

- ・マニュアルは用意していない自治体が殆どであった。
- ・簡易対応マニュアルを用意している自治体もあるが、マニュアルがあっても相談する妊婦は様々なので、マニュアル通りにいかないことが殆どという意見もあった。
- ・面談を実施し、共有すべき内容があればグループや課のMTGで情報共有を実施している自治体が多かった。
- ・マニュアルなしの自治体では、経験年数の長い担当者は一方的に指導する形が多かったが、臨床心理士の研修などを経て変わってきたという声もあった。
- ・妊婦対応に特化したマニュアルではないが、年度初めにマニュアルを作成し、地域ごとの子育て地域拠点の会に参加して、全拠点で同様の支援ができるように努めている自治体もある。

Q6. 専門職以外の面談担当者について

- ・委託をしている場合を除き、基本的には専門職の方が実施している。説明だけを事務職に任せているケースはある。

Q7. 人員体制と役割分担について

- ・チーム制をとっている自治体が多く、チームの中で相談ができるようにしている。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング結果

4. デジタル技術の活用

Q8. デジタル技術の活用状況について

- ・母子モアプリを導入している自治体が複数あり、週数に応じた情報発信を行っていた。一部の自治体では翻訳機能をアプリに導入し、外国籍の妊婦の方向けに向けた情報発信を行っていた。
- ・公式LINEやSMSで情報発信、面談予約をする自治体もある。

5. 情報提供と継続支援

Q9. 地域の子育て支援資源に関する説明の理解度の確認

- ・妊娠届出時に配る子育てガイドラインを、情報を振り返ることができる資料として導入している自治体が多い。
- ・母子モアプリを利用して妊娠～産後まで情報発信をしている自治体も複数あった。
- ・一部の自治体では、漏れなく伝えられるよう、面談時はチェックリストを用いている。

Q10. 出産後の面談終了後の地域の支援資源活用の状況把握

- ・特定妊婦の方に関してのみ、地域資源の利用に関して確認している場合が多い。

Q11. 出産後の面談終了後の継続した支援について

- ・3回目の面談終了後、フォローの必要有無、サービスの利用状況、乳幼児健診、予防接種履歴を確認し、情報提供やフォローを行っていた。
- ・3回目の面談後は、支援が必要な人に対しては地区担当から相談を受けている自治体が多かった。
- ・埼玉県毛呂山町では産後3か月頃に助産師が「ママ応援コール」を行うことで、母親と子供の様子を確認し、その後4か月健診で継続したフォローを実施している。

Q12. 地域資源情報の共有体制について

- ・広島県呉市では、市の職員が見ることができるオンライン掲示板にて各保健センターが情報交換をしている。
- ・チャットや月例会議で情報共有をしている自治体が多い。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング結果

Q13. パートナー・家族への支援について

- ・全ての自治体でパートナーや生活面のフォローは実施できている。
- ・パートナー向けの支援について、今後の検討を希望する自治体が複数確認された。
- ・父親向けのアンケートを実施したことにより積極的に話を聞いてくれるようになった事例や、パートナーも妊婦同様、子育て相談施設で相談できることを伝えている事例、夫にもEPSPテストを受けてもらっている事例があった。
- ・茨城県つくばみらい市では、パパプロジェクトとして、近隣の産婦人科にてパパのための産後ケアを行っていた。（※パパのための産後ケア：父親の積極的な育児や、父親から母親への意識作りの醸成を図るとともに、母親の「私だけの時間づくり」を支援するもの。赤ちゃんの健康状態や発育のケア、授乳指導や育児相談を実施。）
- ・その他にも、パパ向けのマタニティ教室、パパふれあい広場などを、数年前より開催している自治体があった。
- ・千葉県松戸市では、8か月面談でパパ向けの「赤ちゃんのお世話」という簡単なリーフレットを配布。パパのメンタルヘルスに関するリーフレットの用意もあり、相談には対応できる体制が取れている。地域子育て支援拠点からの要望が高かったため、これらのリーフレットができた。

6. 面談方法

Q14. オンライン面談の実施と留意点について

- ・コロナをきっかけに、オンライン面談が可能な自治体は多いが、実際の利用者は年に数人という自治体が複数あった。里帰りをした妊婦や外出を控える妊婦等が利用する。
- ・月10件ほど実施している自治体もある。8か月面談でZoom面談を選択可能としており、切迫早産で入院されている方、自宅安静の方、お仕事のある方などが利用している。Zoomは40分の時間制限があるため、端的な返答になってしまうこともあるが、話が続く方には電話に切り替えることもある。
- ・相手の声が聞こえないように密室で実施したり、背景に配慮したりしている。目線が合うように配慮したり、先方の思いを聞いてから話すようにしている。

3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング結果

7. 評価と改善

Q15. 今後の強化・改善点について

- ・病院と連携し、病院からも情報発信していきたいという意見があった。パートナー向けの支援が課題である。何をすれば効果があるのか、どんな支援を必要としているのかがわからない状態、または、始めたばかりというケースが多かった。

Q16. 支援内容に関する要望の確認について

- ・アンケート内のフリースペースにご要望を記載いただくことがあると答える自治体が複数あった。要望の量、タイミング、すぐに対応できることであるかは、場合によって対応が異なる。

Q17. 面談担当者のスキルアップについて

- ・研修や講座の視聴、ケース検討会等を実施している自治体が多かった。
- ・月例会議の際に講師を呼んで、勉強会を開催している自治体もあった。
- ・面談の質向上のためのアンケート実施を行っている自治体もある。

8. 予算と連携

Q18. 子育て支援への予算配分について

- ・市内各所に週5日以上対応可能な相談窓口を設置し、対応のための人員確保および人件費の予算確保を行っている自治体がある。

Q19. 外国人妊婦・子育て世代への対応について

- ・言語の壁から、制度の紹介ができない等、面談にて障害が発生している。事前に来所することが判明している場合は、国際交流センターの職員や通訳者が面談に同席するという自治体があった。

- ・翻訳アプリを利用してコミュニケーションをとる場合が多い。外国人妊婦の方から翻訳アプリを提示してくれることも多い。

- ・市役所の国際センター・NPO等で翻訳や通訳を依頼する自治体も複数ある。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング結果

◆面談実施後の相談者アンケートに関する質問

1. アンケートの実施状況

Q1. 面談後のアンケート実施タイミングについて

- ・面談後にアンケートを実施している自治体は少ない。
- ・妊娠後期面談をアンケートで代わりに実施している自治体も複数あった（希望者や必要と思われる人のみ面談）。
- ・面談・検診など全タイミングで共通のオンラインアンケートを実施している自治体もある。ただし、回答は「特別に意見がある層」に偏り、中間層は回答しない傾向が見られる。

2. 面談タイミングと継続支援について

Q2. 面談タイミングの適切性・利用希望度の確認について

- ・妊娠届出時は体調も良くなく、話を聞いても覚えられないという意見もあり、8か月の面談を希望してもらうように促している。

3. 面談形式の希望について

Q3. 対面以外の面談形式の希望確認について

- ・オンライン予約の際に対面・オンラインの選択が可能であるが、ほとんどの妊婦が対面で実施している。

4. 面談担当者への評価とフィードバック

Q4. 面談担当者への評価と共有方法について

- ・ポピュレーションアプローチでは担当制をすべての自治体で取っていなかった。広島県内で実施されているアンケートでは、面談担当者の評価を取っている。
- ・担当者評価は、ポジティブな意見もネガティブな意見もある。ポジティブな意見はモチベーションの向上につながっている。ネガティブな意見は、個人が特定しない形で毎月の会議で共有している。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング結果

5. 相談者の不安・要望の把握

Q5. 面談後の相談者の不安・懸念事項の確認について

- ・面談後のアンケートは匿名で行っていることが多く、個人を特定できない。
- ・不安のある方に対しては、追加のフォローを実施している。

Q6. 利用者の情報要望の確認について

- ・要望をアンケートで設問として聞くと、必ず実施しなくてはいけないようで、プレッシャーであるという意見があった。

6. 面談担当者の一貫性に関する評価

Q7. 面談担当者の一貫性に関する評価について

- ・担当者が変わることにに関する意見は特にない。

7. 利用者の声の活用と発信

Q8. 利用者の声の新しい取り組みへの活用について

- ・HPにて情報がどこにあるか分かりづらいという意見を反映し、HPの修正を行った事例がある。

Q9. アンケートをもとに改善した事や新たに開始した取組

- ・自由記述欄に要望を記載いただくことがあり、すぐに対応できることであれば、その都度、課やチームの中で共有し、改善に活かしている。



3-1. 自治体へのヒアリング

ヒアリング結果まとめ

自治体ヒアリングの結果、伴走型相談支援の運用方法や支援内容には、自治体ごとに違いがあることが明らかとなった。具体的には、実施回数や、デジタル技術の活用状況、面談の委託状況などに違いが見られた。特に、SNSや母子保健アプリといったデジタル技術を活用している自治体と、活用していない自治体とでは、情報発信の状況に違いが見られた。デジタル技術を活用している自治体では、情報発信の頻度が高く、産後においても継続的な支援を行っている傾向が見受けられた。

また、すべての自治体で統一して課題に感じていたのは外国人対応である。NPOと連携して取り組みを進めている自治体も見受けられたが、小規模自治体ではNPO等の団体が地域にない場合が多く、翻訳機の利用など限られた手段で対応している状況であった。各自治体で工夫しながら面談を行っているものの、言語の壁により支援が十分に行えないケースが見られた。母子手帳は多言語版は準備している自治体が多いが、その他の資料は日本語のみで対応している自治体が大半であった。一方で、母子保健アプリに翻訳機能を付加し、情報発信の多言語化を図る先進事例もあった。

さらに、パートナー向け支援については、多くの自治体が今後強化していきたい分野としており、伴走型相談支援のさらなる充実に向けて、検討が必要な領域であるとわかった。

本事業で作成する動画については、ヒアリング結果を踏まえ、英語、簡体字、繁体字の3言語による多言語対応を追加で実施した。あわせて、モニターや個室を備えていない自治体が多いことから、動画の展開方法としてQRコードによる配布を行うこととした。一方、アンケートについては、集計や分析などの事務作業が自治体の負担になるとの意見が挙がっており、今後は運用方法を含めた検討を進める必要があるだろう。



3-2. 利用者アンケート調査票の作成

自治体ヒアリングにて得た意見を参考に事務局にてアンケート調査票（案）を作成。その後開催した、第1回～第3回検討委員会にて委員とこども家庭庁と協議を行い、調査票の内容を固めた。2月から開始したプレ面談にて実際にアンケート調査票を活用し、アンケート調査票の内容について妊産婦・パートナーの方から意見を集約。第5回の検討委員会にて委員からの承諾を得て、最終的なアンケート調査票が完成となった。

利用者アンケートは、利用者からのフィードバックに活用できる視点を持ち、全国の自治体が継続して利用するとともに、国が伴走型相談支援の効果を検証する際にも活用できるものとして作成する。

◆アンケート調査票作成の目的

自治体ヒアリングによりヒアリングした自治体の事例を参考に、伴走者のスキルアップ、面談等のクオリティアップ、相談体制の強化、効果的かつ効率的な実施に資するような利用者アンケートの調査票作成を目的とする。

◆利用者アンケート調査の実施手法

- 実施時期：妊産婦への面談時（妊娠初期・妊娠後期・出産後）
- 実施形式：Microsoft formsでのオンライン形式を想定。
※必要に応じて紙面実施も可能とする。
- 個人情報の取り扱い：回答者のプライバシー保護のため、氏名等の個人情報は任意で記入いただく形式とする。

◆調査票作成上の留意点

- 質問文の明確化
誰にでも理解しやすい平易な言葉を使用し、専門用語は避ける。
- 回答形式の工夫
選択式、尺度（5段階評価）、自由記述など、質問内容に適した回答形式を用いる。
- 質問の量と時間
回答者の負担を考慮し、質問数は適切に設定する。

◆その他

- 設問の一部に具体的な支援制度の名称を記載したが、自治体によって制度の名称が異なるため、アンケート調査票の修正は各自治体自身で対応する様式とする。Microsoft formsの操作マニュアルの作成を実施。

3-2. 利用者アンケート調査票の作成

◆アンケート調査票の設問内容（最終）

【問1】

今回の面談は、以下のうちのどの時期に実施されたものですか？
該当するものをお選びください。

- 妊娠初期の面談
- 妊娠後期の面談
- 産後の面談
- その他の時期の面談
(自由記載)

【問2】

あなたの立場を教えてください。

- 妊産婦本人
- パートナー・夫
- 妊婦またはパートナーの父母
- その他 (自由記載)

【問3】

面談場所は、プライバシーへの配慮や衛生面、案内や表示のわかりやすさなどの面で安心できる環境でしたか？

- とても安心できる環境だった
 - 少し気になる点があったが、安心できた
 - どちらともいえない
 - あまり安心できる環境ではなかった
 - 全く安心できる環境ではなかった
- 良かった点や改善してほしい点があれば教えてください。
- その他 (自由記載)

【問4】

面談時間について、適切だと感じましたか？

- とても短かった
 - 少し短かった
 - 丁度よかった
 - 少し長かった
 - とても長かった
- 希望する時間や理由を教えてください。
- (自由記載)

3-2. 利用者アンケート調査票の作成

◆調査票内容（最終）

【問5】

面談担当者は、あなたに寄り添っていると感じましたか？

（例えば、親身になって聞いてくれた、安心して説明を聞くことができた、今後も困り事を相談したいと思えた。など）

- とても感じた
- 感じた
- どちらでもない
- あまり感じなかった
- 感じなかった

良かった点や改善してほしい点を教えてください。

（ 自由記載 ）

【問6】

面談を通じてこれからの子育てのイメージや新たな気づきを得られましたか？

- とてもあった
- あった
- 少しあった
- あまりなかった
- まったくなかった

具体的な気づきや印象に残ったことを教えてください

（ 自由記載 ）

【問7】

面談を通じて、地域にある様々な子育て支援サービスを利用したいと思いましたか？

- とても思った
- 思った
- どちらともいえない
- あまり思わなかった
- まったく思わなかった

（ 自由記載 ）



3-2. 利用者アンケート調査票の作成

◆調査票内容（最終）

【問8】

面談担当者からの地域にある様々な子育て支援サービスの説明を受けて利用してみたい、興味をもった、閲覧してみたい、頼ってみたいと感じた制度や施設を教えてください。

（複数回答可）

相談支援サービス（相談機関や相談アプリ）

産前産後ケア

ショートステイ

ファミリーサポート

家事育児支援

※支援サービスの選択肢は自治体判断で修正・追加可能

特に興味を持った理由や期待することがあれば教えてください。

（ 自由記載 ）

【問9】

今回の面談で出産・子育てに向けて安心できましたか？

（不安に感じていることの説明があったり、相談して不安が解消できたりしましたか？）

とても安心できた（とても解消された）

安心できた（少し解消された）

少し安心できた（あまり解消されなかった）

安心できなかった（まったく解消されなかった）

安心できなくなった（不安が増した）

不安が残っている場合、その内容を教えてください。

（ 自由記載 ）

【問10】

今後も面談（相談）したい思いましたか？

とてもそう思う

そう思う

どちらでもない

あまりそう思わない

まったくそう思わない

そのように思った理由や、今後相談したい内容があれば教えてください。

（ 自由記載 ）

3-2. 利用者アンケート調査票の作成

◆調査票内容（最終）

【問11】

今回の面談の満足度を判断して評点を付けてください。

	1	2	3	4	5	
低						高

【問12】

ご意見等ございましたらご自由にお書きください

ご不安に感じていることや面談について良かった点、改善してほしい点などがあれば自由にお書きください。

お名前（任意）

面談担当者の名前（任意）



3-3. 国の事業紹介動画の作成

【ショート版動画】

伴走型相談支援の質の底上げのため、全国の自治体が妊婦支援給付申請の際の面談に使用することを想定し、国の子育て支援事業を紹介した動画を作成する。

絵コンテを用いて、動画の内容・ナレーション・紹介する支援制度等について、第2回～第4回の検討委員会内にて協議を実施。最終的にはプレ面談にて実際に妊産婦・パートナーの方に内容を確認いただき、第5回の検討委員会内での委員の承諾をもって内容を確定とした。

◆動画作成の目的

面談を実施する職員の知識や経験に関わらず、妊婦に国や自治体の制度説明をする際に活用されることで、妊婦への必要最低限の情報提供を担保するとともに、伴走者のスキルアップに資する動画の作成を目的とする。

◆動画のコンセプト

自治体で妊産婦・パートナーと面談をする際に、相談者の方に見ていただく動画を作成した。

相談時間には限りがあり、且つ相談者（妊婦）にとっては、伴走者との相談が主になると想定されるため、相談時間にあまり影響が出ない所要時間とする。内容は主に、国の子育て支援事業を紹介を中心とし、相談者の不安を払拭でき、支援策への理解を深められる内容とする。

また、外国人妊婦等の視聴を考慮し、英語、簡体字、繁体字の3言語にて翻訳を行う。

◆公開方法

事業終了後、こども家庭庁より各自治体へ送付予定。

自治体への共有方法：QRコード、YouTube、データ送付を想定。

媒体は各自治体により異なる。



3-3. 国の事業紹介動画の作成

【ショート版動画】

◆動画の尺について

全編は13分58秒の動画だが、妊産婦・パートナーに視聴いただくのは10分54秒まで。

◆動画構成

01：前置き

02：妊娠期

- ・はじめの100か月の育ちビジョン
- ・妊婦等包括相談支援事業
- ・妊婦の為の支援給付

03：産後

- ・産後ケア事業
- ・子育て短期支援事業（ショートステイ/トワイライトステイ）
- ・子育て世帯訪問支援事業
- ・ファミリー・サポート・センター事業
- ・こども誰でも通園制度
- ・地域子育て支援拠点事業
- ・地域子育て相談機関

04：後締め

05：そのほかの制度のご紹介

- ・出産育児一時金
- ・出生後休業支援給付
- ・児童手当制度
- ・子の看護等休暇

◆動画制作手法

映像化するまでは、こども家庭庁・検討委員と協議した内容を絵コンテ共有を行い、修正・加筆を繰り返し実施。内容が概ね決まった段階で動画作成⇒ナレーション収録という手順にて制作を進めた。



3-3. 国の事業紹介動画の作成

ショート版動画は全編アニメーションにて制作。
妊婦・パートナー、そのご家族の方が視聴するため、あたたかみのあるイラストを用いた。またイラストにて視聴者へ間違った認識を与えぬように検討委員からも意見を収集し、イラストの削除や修正を繰り返し実施した。

◆ナレーション収録について

ナレーターについては、いくつかのサンプルデータの中から、こども家庭庁と協議を行い、収録を実施した。



ショート版動画映像（完成版一部抜粋）



ショート版動画映像（完成版一部抜粋）



ショート版動画映像（完成版一部抜粋）



ナレーター
谷口 恵美 氏

3-3. 国の事業紹介動画の作成

【ショート版動画】絵コンテ（最終版：一部抜粋）

1、前置き					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
00:00	40'	M01		<p>タイトル【出産・子育てに関する支援制度】(仮)</p> <p>この動画は、妊娠された方とそのパートナー、ご家族にご覧いただくために、制作しました。</p> <p>生まれてくるお子さんが、生涯にわたり幸せに暮らしていけるよう、社会全体で支え、応援していくことを国の基本理念としています。</p> <p>妊娠期から、あなたとご家族に寄り添い、さまざまな支援を行っています。</p> <p>妊娠したとき、嬉しい気持ちがある一方で、先の見えない不安を抱える方が多いと思います。</p>	
00:40					

1、妊娠期					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
01:27	35'	SE01 M02		<p>チャプターテロップ【妊娠期】</p> <p>テロップ「はじめの100か月の育ちピジョン」 はじめに紹介するのは、「はじめの100か月の育ちピジョン」です。</p> <p>妊娠期から小学1年生ごろまで、だいたい100か月。 この「はじめの100か月」は、ごもたちが人生を幸せに過ごすために、とても大切な時期です。</p> <p>この「はじめの100か月」の時期に、大切にしたい考え方が5つあります。</p> <p>その中のいくつかをご紹介します。</p>	
02:02		SE02			

1、妊娠期					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
02:55	58'	SE02 M02		<p>テロップ「保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする」</p> <p>次に、「保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする」です。</p> <p>お子さんが健やかに成長するためには、ごもたちにとって最も身近で大切な存在である保護者や養育者の皆さん自身が幸せであることがとても大切です。</p> <p>子育てにはたくさんの喜びがある一方、悩みや不安もつきものです。</p> <p>妊娠中の今の段階から、悩みや不安をどこに相談していいかわからなくなってしまうことがないように、皆さんの力になりたいと考えています。</p> <p>子育ては、ごもと一緒に、親も育っていくもの。地域には、あなたの子育てを応援している人や場所がたくさんあります。</p> <p>悩みや不安があれば、いつでもお住まいの自治体へ気軽に相談してください。</p>	
03:52					

2、産後					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
04:52	42'	SE01 M03		<p>チャプターテロップ【産後】</p> <p>テロップ「産後ケア事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出産後はずっと心配で大変 ● 慣れない育児でからだも心もつらい ● 授乳の仕方やお世話の方法が分からない <p>そんな時は、産後ケア事業を利用してみましょう。</p> <p>出産後1年以内のお母さんと赤ちゃんを対象に、からだのケア、お世話の仕方、授乳方法などについて、助産師等の専門職がサポートしてくれます。</p> <p>ご利用には条件があるので、お住まいの自治体へ気軽に相談してみてください。</p>	
05:34		SE02			

3、後締め					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
09:37	77'	M04		<p>(後締め)</p> <p>今まで紹介してきた制度の他にも、ひとり親を支える制度、生まれつき病気のあるお子さんがいるご家庭を支える制度や、男性の育児休業取得を支援する制度、お子さんが病気になったときや学校行事の際に利用できる休暇制度など、妊娠・出産をされた方とそのパートナー・ご家族を支える制度があります。</p> <p>子ども未来戦略 子ども子育て応援マップでは、お子さんの成長段階ごとに利用できる、主な支援制度を紹介しています。ご自身が利用できる制度についてぜひご確認ください。</p> <p>困ったとき、不安なとき、疑問があるときは、相談担当者や自治体職員に相談してみましょう。 「こんなことを聞いていいのかな？」と思うことも大丈夫です。 妊娠中だけでなく、出産後や育児の途中でも、いつでも気軽に頼ってください。</p> <p>あなたの子育てを、地域みんなで支えています！ (以降反映検討中内容)</p>	
10:54					

補足情報					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
10:54	56'	SE01 M05		<p>チャプターテロップ【そのほかの制度のご紹介】</p> <p>テロップ「そのほかの制度のご紹介」 ご紹介した制度の他にも、あなたとパートナー、そしてご家族の方を支える支援制度があります。是非ご参考にしてください。</p> <p>テロップ「出産育児一時金」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 出産費用が高くて不安… <p>そんな声に応えるために、健康保険に加入している方を対象に、出産育児一時金として、原則お子さん一人につき50万円が支給される制度があります。</p> <p>妊娠85日（約4か月）以上で出産した場合に支給され、自然分娩・帝王切開・早産・死産の方が対象となります。</p> <p>出産日の翌日から2年以内に申請が必要です。相談担当者と一緒に確認してみましょう。</p>	
11:50		SE02			

3-3. 国の事業紹介動画の作成

【ロング版動画】

伴走型相談支援の質の底上げのため、全国の自治体が妊婦支援給付申請の際の面談に使用することを想定し、国の子育て支援事業を紹介した動画を作成する。

絵コンテを用いて、動画の内容・ナレーション・紹介する支援制度等について、第2回～第4回の検討委員会内にて協議を実施。第5回の検討委員会内での委員の承諾をもって内容を確定とした。

◆動画作成の目的

ロング版動画は伴走者のスキル向上を目的とした内容とする。動画時間は面談中に視聴する動画では無いため、10分程度を想定し、面談スキル向上のため、研修要素を含めた内容とする。

◆動画のコンセプト

相談者には公開せず、伴走者が視聴することを想定する。

面談中に気を付けなければいけないこと（面談時の姿勢、話し方等）や相手の話を聞き出す方法、適切な相談時間、相手への寄り添い方等、面談に対する基本的な内容を動画内に取り入れる。

◆公開方法

事業終了後、こども家庭庁より各自治体へ送付予定。

自治体への共有方法：QRコード、YouTube、データ送付を想定。

媒体は各自治体により異なる。



3-3. 国の事業紹介動画の作成

【ロング版動画】

◆動画の尺について

24分38秒の動画

◆動画構成

01：はじめに

- ・妊婦等包括相談支援事業の意義
- ・伴走者の役割と実施のポイント

02：伴走者のスキルアップ

- ・面談態度の重要性
- ・相手を労う姿勢
- ・価値観に寄り添う姿勢と多様性の尊重
- ・面談対応の留意点
- ・精神的に不安定な方の対応

03：面談のクオリティアップ

- ・組織的な雰囲気づくり
- ・面談場所の整備
- ・面談時間の配慮
- ・継続的な関わりの重要性
- ・アンケートの検証分析
- ・アンケート結果のフィードバック

04：よりよい面談のために

- ・面談予約の配慮
- ・面談の形式
- ・同席者への対応
- ・情報発信の体制整備
- ・外国人妊婦・若年妊婦・高齢妊婦の対応

05：おわりに

- ・ガイドラインの紹介



3-3. 国の事業紹介動画の作成

◆動画制作手法

こども家庭庁・検討委員と協議した内容を絵コンテにて共有し、修正・加筆を繰り返し行った。内容が概ね決まった段階で動画作成⇒撮影⇒ナレーション収録の手順にて制作を進めた。

◆撮影とナレーション収録について

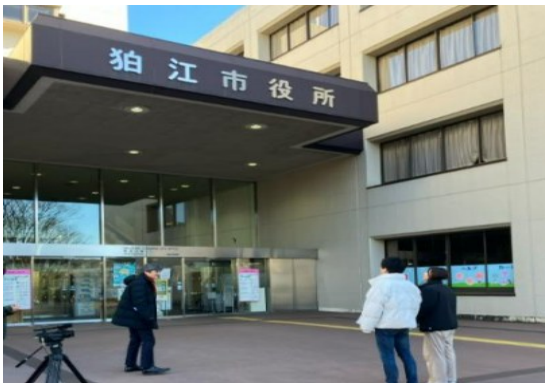
ロング版動画の中で面談時の留意点をよりリアルに伝えるため、演者を数名招聘し、撮影を実施した。

●撮影日：令和8年1月12日（月）

●撮影場所：東京都狛江市役所

●出演者：演者8名（妊婦役、パートナー役、伴走者役 等）

ナレーションは撮影とは別日に収録。視聴者を飽きさせない工夫として、男性・女性のナレーター2名を起用。



ナレーター
西田 雅一 氏



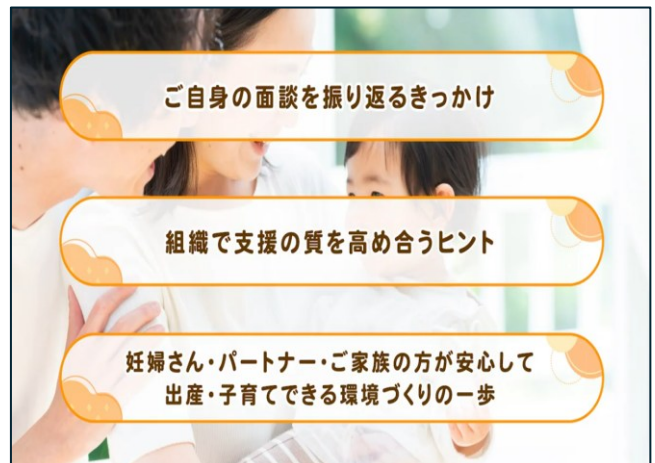
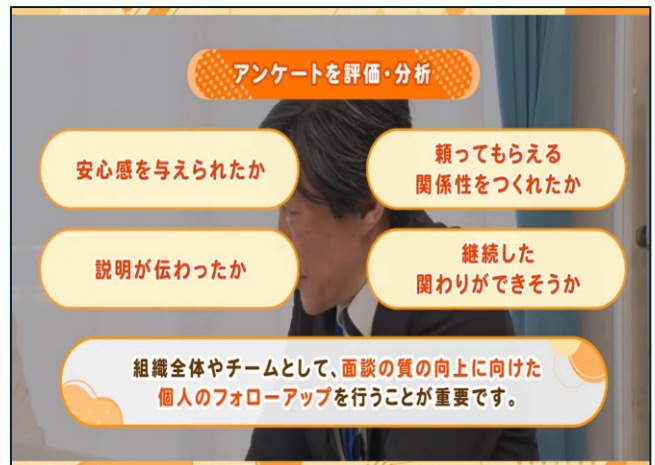
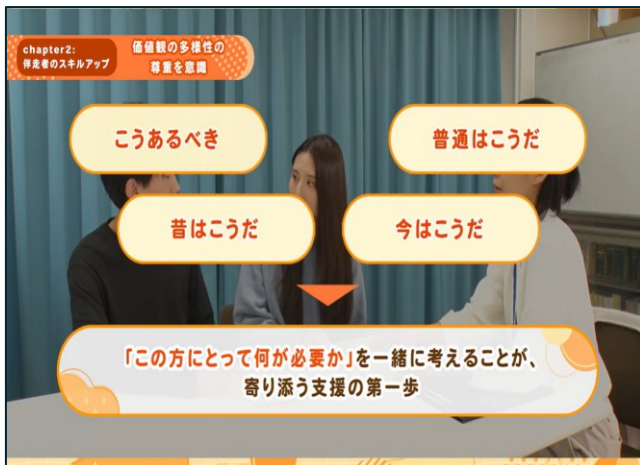
狛江市役所での撮影の様子



ナレーター
谷口 恵美 氏

3-3. 国の事業紹介動画の作成

【ロング版動画】映像（一部抜粋）



3-3. 国の事業紹介動画の作成

【ロング版動画】絵コンテ（一部抜粋）

妊婦等包括相談支援事業

妊婦等包括相談支援事業研修動画



映像用台本ロング版 映像原稿
第5稿：2026年3月6日
Total time: 24:42

チャプター0 <最初のテロップ>

TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
				チャプター①【はじめに】 (はじめに) (妊婦等包括相談支援事業の意義) (伴走者の役割と実施のポイント) チャプター②【伴走者のスキルマップ】 (胎前産後の重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) チャプター③【産後のケアの重要性】 (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) チャプター④【よりよい胎前産後のために】 (胎前産後の重要性) (胎前産後の重要性) (胎前産後の重要性) (胎前産後の重要性) (胎前産後の重要性) (胎前産後の重要性) チャプター⑤【総論】 (ガイドラインの紹介) (おわりに)	

チャプター0 <最初のテロップ>

TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
00:00		M01		タイトル【妊婦等包括相談支援事業研修動画】 この動画は、妊婦等包括相談支援事業の相談担当者に向けて作成した研修動画です。 この動画ではご覧の内容をお届けします。 この動画をご視聴いただき、相談担当者が妊婦さん・パートナー・ご家族の方に寄り添う「伴走者」として、妊婦等包括相談支援事業のポイントを正しく理解し、質の高い伴走型相談支援を実現することを目的としています。 妊婦さん・パートナー・ご家族の方が安心して出産・子育てできる環境づくりには、皆さまのお力が必要です。 ぜひ最後まで動画をご視聴ください。	女性ナレ
00:55					

チャプター1 <はじめに>

TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
00:55		M02		チャプター1【はじめに】 <<妊婦等包括相談支援事業(伴走型相談支援)の意義>> 伴走型の相談支援の実施に際して、妊婦さん・パートナー・ご家族の方が安心して、気軽に相談してもらえる関係性を築くことが重要です。 そのために、伴走者である皆様は、必要な指導、助言を行うとともに、妊産婦の意向や状況に寄り添い、必要な支援に繋げる役割が求められています。 具体的には次の5点が期待されています。	女性ナレ
01:33					

チャプター1 <はじめに>

TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
01:33		M02		<<伴走者の役割と実施のポイント>> ■その1 安心を与える最初の窓口となり、子育てに前向きな気持ちを持ってもらうこと 相談を通じて、不安や困りごとを丁寧に受け止め、適切な支援やサービスへとつなぐ「橋渡し役」を担います。 そして、子育ての楽しさや喜びを感じられるよう、前向きな気持ちをお見守りします。 ■その2 妊婦さん・パートナー・ご家族の方との信頼関係を築くこと 妊婦さん・パートナー・ご家族の方の気持ちに寄り添い、安心して不安や悩みを打ち明けられる、信頼関係を築いていきます。 支援を必要とする方が「ひとりで抱え込まない」よう、必要なときにいつでも寄り添える体制を築きます。	女性ナレ
02:28					

チャプター1 <はじめに>

TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
02:28		M02		■その3 「ひとりでは頑張らなくていい」と伝えること 妊婦さん・パートナー・ご家族の方の中には、「誰にも頼れない」「人だけで子育てをしなければならぬ」と思い込んでいる方も少なくありません。 相談を通じて、「もともと地域に頼っていい」「必要サービスを利用していい」というメッセージを伝えていただくことが大切です。 ■その4 伴走者として寄り添い続けること 一度きりの支援ではなく、妊娠前から子育て期まで、継続的に寄り添い、変化に応じた支援を届けることが大切です。 ■その5 国、市町村、地域の支援制度やサービスを把握すること 国、市町村、地域の支援制度やサービスを、必要な場面で適切につなげられるようにします。	女性ナレ
03:29					



3-4. プレ面談の実施

ヒアリングを実施した自治体と協力し、作成した調査票と動画を使用して妊婦・パートナーの方に対してプレ面談を行う。面談後に5分程度の時間をいただき、妊婦・パートナーの方へショート版動画の視聴と本事業で作成したアンケートへ回答いただく。

◆プレ面談の目的

プレ面談にて得られたアンケート調査票からフィードバックを行い、その運用方法について検証することを目的とする。また、アンケート調査票とショート版動画のブラッシュアップを行う。

◆プレ面談の実施概要

➤ 実施時期：2026年2月10日（火）～2月24日（火）

➤ 面談対象者と面談経路

プレ面談に賛同を得られた自治体数が少ないため、事務局にてモニターを募集し、ヒアリングを実施。関係者を通じて妊婦の協力を得られる方を募り、本事業で作成したショート版動画とアンケートへの回答を依頼し意見を集約した。

自治体	回答者	年齢	妊娠期間	経由媒体
茨城県守谷市	妊婦本人	20代	妊娠初期	自治体
茨城県守谷市	妊婦本人	20代	妊娠中期	自治体
埼玉県志木市	妊婦本人	20代	妊娠中期	自治体
埼玉県志木市	妊婦本人	20代	妊娠後期	自治体
東京都清瀬市	妊婦本人	30代	妊娠7か月	モニター (事務局からの依頼)
東京都清瀬市	パートナー・父	30代	妊娠7か月	モニター (事務局からの依頼)
東京都練馬区	妊婦本人	20代	産後2か月	モニター (事務局からの依頼)
神奈川県横浜市	妊婦本人	20代	-	モニター (事務局からの依頼)

3-4. プレ面談の実施

◆プレ面談で得られた主なフィードバック

○ショート版動画について

【肯定的な意見】

- ✓ 動画の長さは適切で、負担はなかった。
- ✓ 定期的に知りたい・利用したい情報だったため、見返したい。
- ✓ 動画を視聴することで、前向きな感情を持つことができ、様々な不安を相談できる場所があることに安心した。
- ✓ 制度を幅広く知ることができる点はとても良い。
- ✓ 動画を見て、自分の地域での支援や産後ケア、はじめの100か月ビジョン、子育て短期支援事業など、さらに知りたくなった内容があった。
- ✓ 自治体から提供されるお知らせは情報量が多く煩雑になりやすいため、導入として全体像がつかめる比較的短い動画は非常にためになる。視聴後に特に気になる助成や制度について自分で深堀する動機になる。
- ✓ 父目線でも参考になる内容やもっと知りたい内容が組み込まれていて良かった。
- ✓ 興味があったのは、お金関係の支援制度。

【改善余地に関する意見】

- たくさんの制度が次々と紹介されるため、情報が混在して混乱しやすい。
- 「自治体へ相談しましょう」という促しが多いと、自分から聞きに行かなければいけないことを億劫に感じ、足踏みしてしまう可能性がある。
- ページごとの文字量の多さや画像の粗さは若干気になった。
- 手元資料があると理解しやすくなる。QRコードなどで資料へアクセスできる仕組みがあると、動画を見ながら確認しやすい。また、制度の一覧表が手元にあると内容を整理しながら確認でき、理解度が上がる。
- 概要欄に各制度や支援についての詳細へのリンクがあると嬉しい。
- 妊婦面談時に色々聞けるため、面談の前に見た方が良さそうだと感じた。
- 後半頭に残りにくく感じるため、お金の支援と家族やパートナーの相談など、内容をまとめて説明したり、二本立てにしたり、間に切り替えを入れるなど、分かりやすくする工夫が必要。



3-4. プレ面談の実施

○利用者アンケート調査票について

【肯定的な意見】

- ✓ 回答数や所要時間、設問数は適切である。
- ✓ 答えにくい質問や気になる表現は見当たらなかった。

【改善余地に関する意見】

- QRコードのみだと自宅で回答しない人多そう。その場で紙でアンケートに答える方がやりやすいが、つわりが重い方にとっては負担が大きいので、紙とQRコードの両方を用意するのが望ましい。
- アンケート問2の選択肢について、まだ「母」や「父」の自覚がない時期であるため、「妊婦本人」「パートナー・夫」のような表現の方が答えやすい。
- どんなことが不安かを選択肢で答える方がよいのではないか。妊婦の不安は漠然としているため、妊娠初期であればつわりのことなど、選択肢から選べる設問の方が自由記述より自治体として活用しやすそうに感じる。
- すべての面談を通して1回だけ答えるアンケートであれば設問数はちょうどよいが、面談のたびに答えるのであれば、もっと短い方がよい。

◆調査票・動画のブラッシュアップ内容

➤ 利用者アンケート調査票

- 数名から問2の選択肢について、指摘を受ける結果となったため、修正を行う。
- 「不安に感じていることを聞き取る設問があっても良い」との意見を受けたため、問12の自由記載を修正を行う。

➤ ショート版動画

- 長さ・内容について前向き（良い）な意見が多く、追加修正は必要ないと判断した。最終判断は第5回検討委員会にて確認を行った。
- 動画内容に関する手元資料についての意見が数名から出た。手元資料（動画のQRコードを貼りつけたチラシ等）を作成する。



3-5. 検討委員会の開催

調査研究の実施に当たって、当該課題に知見のある有識者や専門家から意見を聴取するため、検討委員会を設置する。全5回、検討委員会を開催した。

◆設置目的

妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）の全国展開に向けた課題抽出と改善策の検討を目的として設置された。

◆委員の選定基準

子育て支援団体関係者、自治体職員、学識経験者など、多角的な視点から議論を行うため、幅広い分野の専門家を選定した。

◆各回における検討内容

○第1回検討委員会

【開催概要】

- 開催日：2025年9月16日（火）
- 開催時間：17:00～19:00（約2時間）
- 開催形式：オンライン

参加者 ※五十音順

<検討委員>・・・6名

- ・ 倉石 哲也 氏 （座長）
- ・ 鈴木 良照 氏
- ・ 関 まりか 氏
- ・ 中條 美奈子 氏
- ・ 西田 真紀 氏
- ・ 渡辺 綾夏 氏

<こども家庭庁>・・・2名

<事務局（株式会社JTB）>・・・2名

<動画制作会社>・・・1名



3-5. 検討委員会の開催

【議事次第】

- (1) 本事業の目的と本事業内で作成する成果物について
- (2) 本事業において実施する取組内容
- (3) 自治体ヒアリング・利用者アンケート表についてディスカッション
- (4) 動画作成・構成案について
- (5) 動画構成案についてディスカッション
- (6) 今後のスケジュールについて
- (7) 事務連絡

【検討会指摘事項】

① アンケート調査票について

<実施タイミング>

・面談後に実施するアンケートは、面談前のアンケート内容を参考に内容が重複しないような工夫が必要。

<対象者>

- ・妊婦だけでなくパートナーも対象に含めるべき。
- ・父性の育成や当事者意識の醸成のためアンケートを取り、父親・パートナーの不安や意見も収集すべき。
- ・パートナー（や付き添い者）にも同様のアンケートを取る。

<内容の工夫>

- ・自由記述欄で不安を記載できるようにすることで、次回面談や支援に活かせる。
- ・自治体支援の充足度を問う設問を追加。
- ・ジェンダー配慮：「旦那さん」などの表現は控える。

<形式>

- ・紙またはデジタル（オンライン）を自治体が選択可能にする。
- ・QRコードでスマホ視聴・回答できる形式が望ましい。



3-5. 検討委員会の開催

【検討会指摘事項】

② 自治体ヒアリングについて

<設問の修正・追加>

- 設問2番「民間委託の有無」：2回目に限定せず、1~3回すべて対象にする。
- 今までやっていなかった面談を始めたことでどんな効果があったか聞くべき。
- 設問17番「地域資源の伝達」：文言の意図が伝わりにくいため、再検討が必要。
- 民間委託をしている目的・効果・地域資源の活用方法を問う設問を追加。

③ 動画作成・構成案について

<動画の本数と構成>

- ショート版（妊婦・パートナー向け）とロング版（自治体・支援者向け）の2本作成が望ましい。

<内容のポイント>

- 妊婦・パートナーが地域資源や支援を積極的に活用できるよう促す（支援を使っていい、頼っていい）メッセージ性を用いる。
- 国と自治体の事業名の違うこともあるため注意必要。
- ジェンダーバランス、パートナーシップを築いていくという点に配慮。

<視聴方法>

- 自分のスマホで見る形式がよい。



3-5. 検討委員会の開催

○第2回検討委員会

【開催概要】

- 開催日：2025年10月15日（水）
 - 開催時間：15:00～17:00（約2時間）
 - 開催形式：オンライン
 - 参加者 ※五十音順
- <検討委員>・・・6名
- ・ 倉石 哲也 氏 （座長）
 - ・ 鈴木 良照 氏
 - ・ 関 まりか 氏
 - ・ 中條 美奈子 氏
 - ・ 西田 真紀 氏
 - ・ 渡辺 綾夏 氏
- <こども家庭庁>・・・3名
- <事務局（株式会社JTB）>・・・3名
- <動画制作会社>・・・1名

【議事次第】

- (1) 自治体ヒアリングについて進捗のご報告
- (2) アンケート調査票について
ディスカッション①（20分）
- (3) ロング版動画内容について
ディスカッション②（25分）
- (4) ショート版動画内容について
ディスカッション③（10分）
- (5) 今後のスケジュールについて



3-5. 検討委員会の開催

【検討会指摘事項】

① アンケート調査票について

<実施タイミング>

- 各面談後に実施することが重要（まとめてではなく、都度実施）。
- 自治体の負担を軽くする工夫は必要。

<仕様>

- 氏名記載は任意とし、心理的安全性を確保。
- 名前を記載したい人もいるため、半匿名設計が現実的。

<内容の工夫>

- 「説明のわかりやすさ」という表現ではなく「支援を利用してみようと思えたか」に変更。
- 「聞きたいことが聞けたか」という質問を作成。
- 「人」に限定せず、支援制度や施設も選択肢に含める。
- 切れ目のない支援ができたかを確認する質問を入れる。

<評価方法>

- 面談の満足度を五段階評価＋理由記載する。
- 定量的な評価も導入する。

<回答方法>

- Googleフォームなどで簡素化する。
- QRコード活用する。

② 動画作成・構成案について（ロング版）

<視聴対象・位置づけ>

- 新人・ベテランの区分なく、すべての支援者が共通認識を持てる内容にする。
- 役職や経験年数による線引きは不要。
- 動画は研修用としての位置づけが望ましい。

<動画の長さ・構成>

- 10分動画は振り返り用としては長く、使いづらい。
- ロング動画は研修用として活用し、簡潔な確認リストを添えて振り返りに活用。

<支援者の立ち位置・役割>

- 面談実施者の役割定義を前段階で明確にする。
- 支援者がどのような立場で対応するかを明示する。
- 相談を受ける際の立ち位置や姿勢（否定せず受け止める、価値観の押し付けをしない）を明確にする。
- ジェンダーバランスへの配慮も一文で入れる。

3-5. 検討委員会の開催

【検討会指摘事項】

<スキルアップ・理解促進>

- 伴走型相談支援が何のためにあるのかを明確に伝える。
- 「地域資源」の定義をわかりやすく説明（市・民間問わず）する。
- スキルアップの内容を具体的に提示する。

③ 動画作成・構成案について（ショート版）

- 多言語対応（字幕設定）を行う必要がある。
- 妊婦が一人で理解できる構成にする。
- 時系列で制度がわかるように。妊娠期・出産直後・産後の3つに分けて制度紹介する。
- 金額や家計支援など、具体的なメリットを提示する。
- 「誰でも支援を受けていいというメッセージを中心に据える。
- 温かく共感を呼ぶトーンで構成し、安心感を与える。
- 「今の自分が使える制度」が一目でわかる構成にする。
- 「こういう時に、こういう制度が使えるよ」、「困ったら、みんなが助けてくれるよ」、「遠慮せず、相談していいんだよ」というメッセージ性をもたせる。
- 詳細情報にアクセス可能にする 国の「100か月の育ちビジョン」など
- 金額や家計支援の情報も明示し、実用性を高める。
- 動画を見ると得をする 給付金等の情報も入れる。



3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

①第2回検討委員会次第・事業概要資料（一部抜粋）

資料1

令和7年度子ども・子育て支援調査事業
調査研究課題1-06

「妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）の効果的な実施に向けた
周知方法及びフィードバック方法に関する調査研究」事業

第2回検討委員会

○開催日時：10月15日（水）15：00～17：00（約2時間）
○開催場所：オンライン開催
○参加者：※様々

<検討委員>

- ・森石 哲也 様（座長）
（京産大女子大学心療・社会福祉学部 社会福祉学科 教授）
- ・鈴木 良昭 様
（学芸大学 国際文化学センター 客員准教授 法人福祉学部長）
（株式会社SamuraiTech 代表取締役）
- ・岡 まりか 様
（特定NPO法人マーズ・ネット 理事長/NPO法人子育てひろば
企画連絡協議会 理事）
- ・中條 美奈子 様
（名古屋女子大学 産科看護学専攻 准教授）
- ・西田 真紀 様
（名古屋女子大学 産科看護学専攻 准教授 講師）
- ・渡辺 綾夏 様
（横浜市 産科看護学専攻 准教授）

<事務局>

- ・株式会社JTB 黒主、福原、中西
- ・（委託会社） 株式会社アドバンテージ様 株式会社アドバンテージ様

<オブザーバー>

- ・こども家庭庁 大野様、今井様、小川様

【会議資料】
資料1：第2回検討委員会次第・事業概要資料
別紙①：自治体ヒアリング項目&ヒアリング結果
別紙②：ロング版動画構成字コンテ
別紙③：令和8年度こども家庭庁試算要求資料

第2回検討委員会次第

- ① 自治体ヒアリングについて進捗のご報告
- ② アンケート調査票について
ディスカッション①（20分）
- ③ ロング版動画内容について
ディスカッション②（25分）
- ④ ショート版動画内容について
ディスカッション③（10分）
- ⑤ 今後のスケジュールについて

① 自治体ヒアリングについて進捗のご報告

■自治体ヒアリング進捗

自治体名	ヒアリング日	自治体名	ヒアリング日
1_東京都 町田市	8/18 実施済	15_長崎県 長崎市	依頼中（督促済）
2_埼玉県 志木市	8/21 実施済	16_鹿児島県 阿久根市	10/21 実施予定
3_茨城県 つくば市	8/22 実施済	17_宮崎県 都城市	依頼中（督促済）
4_茨城県 守谷市	8/28 実施済	18_香川県 坂出市	依頼中（督促済）
5_東京都 板橋区	9/4 実施済	19_千葉県 松戸市	実施予定
6_三重県 松阪市	9/12 実施済	20_茨城県 つくばみらい市	10/14 実施済
7_奈良県 生駒市	9/16 実施済	21_京都府 木津川市	新規依頼中
8_大阪府 堺市	9/26 実施済	22_栃木県 さくら市	新規依頼中
9_広島県 呉市	10/7 実施済	23_東京都 東村山市	新規依頼中
10_広島県 福山市	10/8 実施済	24_青森県 六ヶ所村	新規依頼中
11_埼玉県 毛呂山町	10/22 実施予定	25_東京都 小金井市	新規依頼中
12_千葉県 富津市	11/4 実施予定	26_愛知県 みよし市	新規依頼中
13_香川県 高松市	依頼中（督促済）	27_北海道 苫小牧市	新規依頼中
14_佐賀県 佐賀市	依頼中（督促済）		

自治体へのヒアリング実施
●当初想定していた自治体からいくつかお断りのご連絡があり、想定より少ない数となっている。
追加で候補地を選定中。10月中にある程度の実施を目指す。
現在実施済は11件。

②自治体ヒアリング項目・結果（EXCEL）

No.	質問	東京都 町田市
1	国の伴走型相談支援に関するガイドラインでは、妊婦に対し「妊婦届出時」「妊婦後期」「出産後」の3回の面談実施の他に、随時相談受付等を継続的に実施することが望ましいとあります。これら3回の面談の間に追加の面談やアッシュ型の情報発信は行っていますか？	・3回の面談は予定で行っている。 ・妊婦後期はLINEでアンケートで行っているが、希望制で面談を行っている。 ・妊婦届出後の面談に来ていない妊婦、出産後の妊婦には手紙で連絡し、手紙している。 ・それぞれの時期で面談が必要な方に対しては、地区担当が必要なサポートを妊婦の方が安心するまで実施している。
2	面談を民間団体等に委託していますか？ 伴走型相談支援（1～3回の面談）において、民間委託を実施している場合、委託の目的や期待する効果、地域資源の活用方法、課題について教えてください。	・民間団体等への面談の委託はなし。 ・職員ではない助産師の方に、出産後の訪問を手伝ってもらっている。しかし、町田市の職員として。
3	一人の妊婦に対して毎回同じ方が担当されていますか？	・支援が必要な妊婦に関しては、毎回同じ担当者がフォローを行っている。 ・健康度の高い、一般の妊婦の方は、担当が変わることに関して特にこだわりがない。 人との関係性が築きづらい妊婦さんは、同じ担当者でないと不安に感じることがある。 ・新しい担当がすでに内部にいる場合には、3月中に、現在の担当と新任の担当が2名で妊婦の方を訪問し、 現担当者から新しい担当者をご紹介する流れをとる。 なるべく丁寧に信頼のある担当者から紹介という形に対応している。 しかし、稀なケースであるが、引継ぎ時期に新任の担当者がいない場合は、移動後も現担当者が妊婦からの連絡を対応している。
4	※No.2で「はい」と答えた場合 面談を委託されている場合、委託先の面談担当者に対して具体的にどのような指示をしていますか？ 指示する際の注意点を教えてください。	

3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

③ロング版動画構成字コンテ（一部抜粋）

妊婦等包括相談支援事業

相談支援事業動画（仮）



映像用台本ロング版
第1稿：2025年10月10日

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
00:00	00:00		<p>タイトルテロップ 【相談支援事業動画(仮)】</p> <p>向かい合い面談している妊婦さんと面談者</p> <p>つわりで苦しそうな妊婦さん</p> <p>公園で子供を遊ばせている母親</p> <p>乳児を抱きかかえる父親</p> <p>子育て前夜のイメージ (子供の寝ま音が多数の母親を驚かす)</p>	<p>この動画は、妊婦等包括相談支援事業の面談を実際に行う方向けに作成しています。</p> <p>近年、核家族化や共働きが進捗により、周囲に頼れる人がおらず不安感を抱えながら妊娠・出産を迎えざるを得ない場合や、孤立した環境において子育てを行う妊婦・子育て世帯が増加しています。</p> <p>また、我が国の少子化の進展は深刻。安心して妊娠・出産・子育てを行うためには行政と地域の支えが不可欠です。</p>	

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
			<p>泣き叫んでいる乳児の様子</p> <p>妊婦さん、パートナー、面談者が3人で面談している様子</p> <p>産婦さんが赤ちゃんを抱えながら面談者と面談している様子</p>	<p>こうした状況では、子育てに伴う精神的ストレスや負担感が増大することで、精神面での不調や、場合によっては、こどもへの虐待につながってしまう可能性があります。</p> <p>孤立した子育てを防止し、虐待リスクの高まりを防ぐためには、出産前から継続して、市町村や支援機関等が、妊婦・子育て世帯とつながりを保ち、気軽に相談できる環境や関係性を構築するとともに、必要に応じて適切な支援・サービスを提供できるような体制を整備することが必要です。</p>	

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
			<p>向かい合い面談している妊婦さんと面談者</p> <p>【テロップ】 ①相談対応者のスキルアップ ②面談のクオリティアップ ③相談し易い雰囲気構築する</p> <p>妊婦さん、パートナー、面談者が3人で面談で面談している様子</p>	<p>この動画を視聴いただき、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①相談対応者のスキルアップ、 ②面談のクオリティアップ、 ③相談し易い雰囲気を構築する <p>ことにより、妊婦・パートナーの方の不安が少しでも解消され、面談者との信頼度アップにつながり、より質の高い妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）が定着することを願います。</p>	

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
			<p>チャプターテロップ 【はじめに】</p> <p>体調不良の妊婦さんを心配するパートナー</p> <p>ファミリーサポートを利用している親子とサポートの様子</p> <p>面談者同士で面談の様子を振り返りをする様子</p>	<p>妊婦とパートナーの方は不安を沢山抱えています。2人だけで子育てしなくてはならないという意識を持っている方もいます。</p> <p>もっと地域に頼っていい、もっと支援を使っていい、という事を面談を通して改めて伝えていただくことが大切です。</p> <p>全ての妊婦・パートナーの方が安心して出産・子育てができるよう、皆様の力が必要です。</p> <p>是非、日頃の面談の様子を振り返っていただき、できていない事があれば参考してみてください。</p>	

チャプター2 <面談までの流れ>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
			<p>チャプターテロップ 【面談までの流れ】</p> <p>スマホ上の母子手帳アプリ・LINEによるやりとりの映像</p> <p>オンライン面談をしている妊婦さんと面談者が映っているPC画面</p> <p>オンライン面談をしている面談者と、画面上の妊婦さん</p>	<p>面談の予約については、面談までの待ち時間で妊婦の方に負担をかける可能性もあるので、母子手帳アプリやLINE等を積極的に活用しましょう。</p> <p>面談は対面で行う事が望ましいですが、体調や、車通等、状況によってはオンライン面談も必要となります。</p> <p>オンライン面談では、相手の周囲の環境に配慮し、個人情報に関する話題は避けるなどの注意が求められます。</p> <p>また、名前を呼ぶ際にはフルネームではなく名字のみにとどめるなど、プライバシーへの配慮も忘れないようにしましょう。</p>	<p>アプリ名を掲載してOKです(母子手)</p>



3-5. 検討委員会の開催

○第3回検討委員会

【開催概要】

- 開催日：2025年11月10日（月）
- 開催時間：15:00～17:00（約2時間）
- 開催形式：オンライン
- 参加者 ※五十音順

<検討委員>・・・6名

- ・ 倉石 哲也 氏 （座長）
- ・ 鈴木 良照 氏
- ・ 関 まりか 氏
- ・ 中條 美奈子 氏
- ・ 西田 真紀 氏
- ・ 渡辺 綾夏 氏

<こども家庭庁>・・・3名

<事務局（株式会社JTB）>・・・3名

<動画制作会社>・・・1名

【議事次第】

- (1) 自治体ヒアリングについて進捗のご報告
- (2) アンケート調査票について
- (3) ロング版動画内容について
- (4) ショート版動画内容について
- (5) プレ面談について
- (6) 今後のスケジュールについて



3-5. 検討委員会の開催

【検討会指摘事項】

① ロング版動画作成・構成案について

- 動画で伝えたいことを冒頭でまとめるべき。最後にもそのまとめた画像を出すことで、理解が深まる。
- 面談後のアンケートの話は動画に入れる必要はない。

② ショート版動画作成・構成案について

- ショートステイについては、すべての子育て家庭が気軽に使えるわけではないため、一時預かりに変更すべきではないか。もっと身近な支援から紹介すべき。

③ プレ面談について

- ヒアリングを行った自治体と、人口規模の異なる自治体で実施すべき。
- 自治体規模や財政状況によって異なるため、規模の異なる自治体で調査するのは良い。
- プレ面談への同席は難しい。プライベートなことであるため、相談者の方にとって負担になる。
- プレ面談を実施する妊婦さんの週数については、妊娠初期、妊娠後期、産後が偏りなく実施すべき。



3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

① 第3回検討委員会次第・事業概要資料（一部抜粋）

資料1

令和7年度子ども・子育て支援調査事業

調査研究課題1-06

「妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）の効果的な実施に向けた周知方法及びフィードバック方法に関する調査研究」事業

第3回検討委員会

○開催日時：11月10日（月）15：00～17：00（約2時間）
○開催場所：オンライン開催
○参加者： 関係者等

<検討委員>
・倉石哲也 様（座長）（奈良女子大学心理学・社会福祉学部 社会福祉学科 教授）
・鈴木良照 様（学務法人 国際文化アカデミー 常務理事 法人経理本部長）
・関 まりか 様（認定NPO法人マミーズ・ネット 理事長/NPO法人子育てひろば 全国連絡協議会 理事）
・中條美奈子 様（名古屋子ども青少年子育て支援課 課長補佐）
（原簿1 産後経過録 母子健康簿）

<事務局>
・株式会社JTB（委託会社）
・黒主、福岡、中西 株式会社アドバンテージ

<オブザーバー>
・こども家庭庁 大野様、今井様、小川様

【会議資料】
資料1：第3回検討委員会次第・事業概要資料
別紙①：自治体ヒアリング項目&ヒアリング結果
別紙②：アンケート調査票（案）
別紙③：ロング版動画構成（案）・絵コンテ
別紙④：ショート版動画構成（案）・絵コンテ

第3回検討委員会次第

- ① 自治体ヒアリングについて進捗のご報告
- ② アンケート調査票について
- ③ ロング版動画内容について
- ④ ショート版動画内容について
- ⑤ プレ面談について
- ⑥ 今後のスケジュールについて

① 自治体ヒアリングについて進捗のご報告

自治体名	ヒアリング日	自治体名	ヒアリング日
1.東京都 町田市	8/18 実施済	16.北海道 苫小牧市	依頼中（回答済）
2.埼玉県 志木市	8/21 実施済	17.香川県 六ヶ野村	依頼中（回答済）
3.茨城県 つくば市	8/22 実施済	18.栃木県 さくら市	依頼中（回答済）
4.茨城県 守谷市	8/28 実施済	19.東京都 東村山市	依頼中（回答済）
5.東京都 板橋区	9/4 実施済	20.東京都 小金井市	依頼中（回答済）
6.三重県 松阪市	9/12 実施済	21.愛知県 みよし市	依頼中（回答済）
7.奈良県 生駒市	9/16 実施済	22.京都府 木津川市	依頼中（回答済）
8.大阪府 藤屋川市	9/26 実施済	23.香川県 坂出市	依頼中（回答済）
9.広島県 呉市	10/7 実施済	24.千葉県 高松市	依頼中（回答済）
10.広島県 福山市	10/8 実施済	25.長崎県 長崎市	依頼中（回答済）
11.茨城県 つくばみらい市	10/14 実施済	26.兵庫県 佐貫市	依頼中（回答済）
12.鹿児島県 阿久根市	10/21 実施済	27.宮崎県 都城市	依頼中（回答済）
13.埼玉県 毛呂山町	10/22 実施済		
14.千葉県 松戸市	10/24 実施済		
15.千葉県 富津市	11/4 実施予定		

自治体へのヒアリング実施
●当初は30府の自治体ヒアリングを予定していたが、お断り・回答無しの自治体が多く、実施できたのは「15」自治体となった。

●当初よりヒアリング自治体は少なくなったものの、アンケート調査票作成、動画作成に向けて情報収集はできたと考えています。11月～1月にかけて引き続き実施できる自治体があれば継続してヒアリングを行います。

② 自治体ヒアリング項目・結果（EXCEL）（一部抜粋）

№	質問	東京都 町田市	埼玉県 志木市	茨城県 つくば市
1	国の伴走型相談支援に関するガイドラインでは、妊婦に対し「妊娠届出時」「妊娠後期」「出産後」の3回の面談実施の他に、随時相談受付等を継続的に実施することが望ましいとあります。これら3回の面談の間に追加の面談やプッシュ型の情報発信は行っていますか？	<ul style="list-style-type: none"> 3回の面談は定期で行っている。 妊娠後期はLINEでアンケートで行っているが、希望制で面談を行っている。 妊娠届後の面談に来ていない妊婦、出産後の妊婦には手紙で連絡し、干渉している。 それぞれの時期で面談が必要な方に対しては、地区担当が必要なサポートを妊婦の方が安心するまで実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 8か月はQRコードアンケート、希望の方のみ面談実施 面談後のアンケートは実施なし 伴走型相談支援も実施しつつ、従来の面談も実施している。 妊婦届時は全妊婦と面談し、その際に必要な情報提供。 2ヵ月または3ヵ月間の希望のいずれかで、助産師から電話をしている。希望があれば面談。 8か月アンケートから希望者へ面談実施。 出生後の新生児訪問は全妊婦。 それ以外も適宜必要な方には面談、訪問、電話支援をしている。三か月検診後のつなぎは普及からしている。 母子保健推進師（子育て経験のあるボランティア）が音から志木市で活躍。出生後面談は全妊婦へ訪問。 妊婦中は希望があれば実施。 特別な支援が必要な妊婦の方には地区の担当保健師が3回の面談以外でもサポート 情報発信として、志木っ子安心子育てサポートを配っている。支援内容がまとまった冊子。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信はつくっくすくすアプリにおいて、定期的。 妊婦届出時を手付けしている。つくっくすアプリである。 妊娠申請書サービスで事前申請。届出アプリで妊婦さんに面談を行っているのは、妊婦届出時と出産。窓口にも連絡するつもり。 妊婦届出時に、アセスメントシートを利用して、ハイリスクの妊婦は、8か月面談も必須。3回以外の随時アセスメントシートは、以前まで作成したものも、つぎつぎと更新して作成した。 つくば市独自のものをしよう。リスクレベルをAからDのののは、最もハイリスクで、早急に支援が必要なく、Bののは、今とこの間は問題なくても、出産後今後支援の必要は、リスクはあちもの、アンケート後のフォロー
2	面談を民間団体等に委託していますか？伴走型相談支援（1～3回の面談）において、民間委託を実施している場合、委託の目的や期待する効果、地域資源の活用方法、課題について教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> 民間団体等への面談の委託はなし。 職員ではない助産師の方に、出産後の訪問を手伝ってもらっている。しかし、町田市の職員として。 	<ul style="list-style-type: none"> 民間団体等への面談の委託はなし。 委託ではないが、母子保健推進師（ボランティアスタッフ）が対応するケースがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 面談の委託はなし。
3	一人の妊婦に対して毎回同じ方が担当されていますか？	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な妊婦に関しては、毎回同じ担当者がフォローを行っている。 健康度の高い、一般の妊婦の方は、担当が変わることに関して特にこだわりがない。 人との関係性が築きづらい妊婦さんは、同じ担当者でないと不安に感じることがある。 新しい担当がすでに内部にいる場合には、3月中に、現在の担当と新任の担当が2名で妊婦の方を訪問し、関係性を築いていく。妊婦さんにも安心感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 妊婦届時は、担当者は会計年度任用職員（非常勤の地方公務員のこと）の助産師と保健師が対応している。 市民の方々の状況に応じて対応していくかを、会議で地区担当が必要かどうかを決定している。 会計年度任用職員は助産師2名が担当している。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当は変わる。 妊婦届時4力で行っており、どこでも出せる。 そのうちの一つである、未来子育てセンター（本庁）は他3期分の保健センターが地区担当を取っている。 妊婦さんはこれらどこでも面談可能だが、67%の人になる。 地区担当を持っていない市庁の担当者が、ヒアリングの後の対応は地区担当が行う。

3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

③アンケート調査票

面談実施後アンケート（案）

このアンケートは、妊婦の方やそのご家族・パートナーの皆さまが、安心して妊娠・出産・子育てを進められるよう、面談の質をより高めることを目的として実施しています。面談の内容が充実したものと、次回以降も相談しやすい環境づくりにつながるよう、今回の面談を受けてのご感想や、現在感じていること、日々の中で気になっていることなどについて、率直なご意見をお聞かせください。

問1 今回の面談は、以下のうちの時期に実施されたものでしょうか？
該当するものをお選びください。

妊娠初期の面談
 妊娠中期の面談
 産後の面談
 その他の時期の面談（ ）

問2 あなたの立場を教えてください。

母
 父
 親父母
 その他（ ）

問3 面談場所は、プライバシーの配慮や衛生面、案内や表示のわかりやすさなどの面で安心できる環境でしたか？

とても安心できる環境だった
 少し気になる点があったが、安心できた
 どちらともいえない
 あまり安心できる環境ではなかった
 全く安心できる環境ではなかった
良かった点や改善してほしい点があれば教えてください。
（ ）

問4 面談時間について、適切と感じましたか？

とても短かった
 少し短かった
 丁度よかった
 少し長かった
 とても長かった
希望する時間や理由を教えてください。（自由記述）
（ ）

問5 面談担当者は、あなたに寄り添っていると感じましたか？
（例えば、親身になって聞いてくれた、安心して説明を聞くことができた、今後も困り事を相談したいと思えた、など）

とても感じた
 感じた
 どちらでもない
 あまり感じなかった
 感じなかった
良かった点や改善してほしい点を教えてください。（自由記述）
（ ）

問6 面談を通じてこれからの子育てのイメージや新たな気づきを得られましたか？

とてもあった
 あった
 少しあった
 あまりなかった
 まったくなかった
具体的な気づきや印象に残ったことを教えてください。（自由記述）
（ ）

問7 面談を通じて、地域にある様々な子育て支援サービスを利用したいと思いませんか？

とても思った
 思った
 どちらともいえない
 あまり思わなかった
 まったく思わなかった
利用したいと思ったサービスや理由を教えてください。（自由記述）
（ ）

問8 面談担当者からの地域にある様々な子育て支援サービスの説明を受けて利用してみたい、興味をもった、閲覧してみたい、触ってみたいと感じた制度や施設を教えてください。（複数回答可）

相談支援サービス（相談機関や相談アプリ）
 産前産後ケア
 ショートステイ
 ファミリーサポーター
 家事育児支援

特に興味を持った理由や期待することがあれば教えてください。（自由記述）
（ ）

問9 行政機関が実施する子育て支援サービスの内容に満足していますか？
（行政機関が実施する子育て支援サービスとは●●●●●などです。）

とても満足している
 満足している
 どちらともいえない
 あまり満足していない
 満足していない
満足・不満の理由や改善してほしい点を教えてください。（自由記述）
（ ）

問10 今回の面談で出産・子育てに向けて安心できましたか？
（不安を感じていたことの説明があったり、相談して不安が解消できたりしましたか？）

とても安心できた（とても解消された）
 安心できた（少し解消された）
 少し安心できた（あまり解消されなかった）
 安心できなかった（まったく解消されなかった）
 安心できなかった（不安が増した）
不安が残っている場合、その内容を教えてください。（自由記述）
（ ）

問11 今後、面談（相談）したいと思いませんか？

とてもそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない
そのように思った理由や、今後相談したい内容があれば教えてください。（自由記述）
（ ）

問12 ご意見等ございましたらご自由にお書きください。
面談の感想や改善してほしい点、良かった点などがあれば自由にお書きください。

問13 今回の面談を総合的に判断して評価を付けてください。

値	1	2	3	4	5	高
	□	□	□	□	□	↑

※お名前のご記入は任意ですので、ご都合に応じてご記入ください。

お名前：

3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

④ロング版動画構成（案）・字コンテ（一部抜粋）

妊婦等包括相談支援事業

相談支援事業動画（仮）



映像用台本ログ版
第2稿：2025年10月31日
Total time: 21:29

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
04:24	00:50		<p>オトモテテロップ 【相談支援事業実施地域】</p> <p>向かい合っている妊婦さんと相談者</p> <p>つわりで苦しそうな妊婦さん</p> <p>公園で子供を遊ばせている母親</p> <p>乳児を抱きかかえる父親</p> <p>子育てのイメージが多数の子を産む（赤ん坊）</p>	<p>この動画は、「妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）」において、実際に面談を担当する方々に向けて作成したものです。</p> <p>近年、核家族化や共働き増加により、妊娠・出産・子育てを周囲に頼れず、不安を抱えながら迎える方が増えています。特に、孤立した環境で子育てを行う家庭が増加してきて、精神的なストレスや負担が大きくなることで、心の不調や、場合によっては子どもへの虐待につながるリスクも懸念されています。</p> <p>また、我が国では少子化が深刻な課題となっており、安心して妊娠・出産・子育てができる社会的実現には、行政と地域の継続的な支援が不可欠です。</p>	

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
04:24	00:41		<p>テロップ 面談の模様をタイムラップ</p> <p>妊婦さん、パートナー、相談者が3人で面談している様子</p> <p>電話をしている面談者と妊婦さん</p> <p>産婦さんが赤ちゃんを抱えながら相談者と面談している様子</p>	<p>ガイドラインでは、妊娠届出時・妊娠後期・出産後の3回の面談が定められています。しかし、妊婦やパートナーの方は、その間にも不安を感じることがあります。</p> <p>電話や追加面談などを通じて、継続的に状況を確認する姿勢が大切です。3回の面談以外にも面談や電話等で積極的に状況を確認しましょう。</p> <p>特にハイリスク妊婦の方には、積極的な面談の実施が求められます。必須ではありませんが、早まじい対応として、面談者を常設しに継続して対応する事で、信頼関係の構築にもつながります。</p>	

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
04:24	00:30		<p>テロップ 伴走型相談支援事業の意義と面談担当者の役割</p> <p>産まれたばかりの赤ちゃんの様子</p> <p>妊婦さん、パートナー、相談者が3人で面談している様子</p> <p>産婦さんが赤ちゃんを抱えながら相談者と面談している様子</p>	<p>こうした背景のもと、伴走型相談支援により、市町村や子育て支援機関は、妊婦・パートナー・ご家族が安心を感じ気軽に相談してもらえる関係性を築くことが重要です。</p> <p>そのために、面談を担当する私たちは、必要な指導、助言を行うだけでなく、妊婦の意向や状況に寄り添う「伴走者」としての役割が求められており、具体的には次の6点が期待されています。</p>	

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
04:24	00:47		<p>テロップ 面談の模様をタイムラップ</p> <p>【テロップ】 ①子育てにポジティブなイメージをもってもらうこと</p> <p>笑顔で赤ちゃんをあやす産婦さんとパートナー</p> <p>【テロップ】 ②妊婦さん、パートナー、ご家族との信頼関係を築くこと</p> <p>妊婦さん、パートナー、相談者が3人で面談している様子</p> <p>【テロップ】 ③支援の入り口としての役割を果たすこと</p> <p>面談中に資料を見せながら話す相談者</p>	<p>(1) 子育てにポジティブなイメージをもってもらうこと 子育ての楽しさや喜びを伝え、前向きな気持ちを育みます。</p> <p>(2) 妊婦さん、パートナー、ご家族との信頼関係を築くこと 妊婦さんの立場に立ち寄り傾聴を心掛ける、安心して不安や悩みを打ち明けられる、信頼関係を築いていきます。妊婦や子育て家庭が「ひとりで抱え込まない」よう、継続的に関わりを持ち、必要な支援につなげられるようにすることが大切です。</p> <p>(3) 支援の入り口としての役割を果たすこと 相談を通じて、不安や困りごとを丁寧に受けとめ、適切な支援やサービスへとつなぐ「橋渡し役」としての役割を担います。</p>	

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
04:24	00:48		<p>テロップ 面談の模様をタイムラップ</p> <p>【テロップ】 ④「ひとりで頑張らなくていい」と伝えること</p> <p>地域みんなで子育てのイメージ</p> <p>【テロップ】 ⑤伴走者として寄り添い続けること</p> <p>たくさんの地域の支援者が手を繋いでいるイメージ</p> <p>【テロップ】 ⑥国、市町村、地域資源の把握</p> <p>地域の支援団体によるページョガの講習の様子</p>	<p>(4) 「ひとりで頑張らなくていい」と伝えること 妊婦さんやそのパートナーの中には、「誰にも頼れない」「2人で子育てをしなければならない」と思い込んでいる方も少なくありません。面談を通じて、「もっと地域に頼っていい」「支援を使っていい」というメッセージを、改めて伝えていただくことが大切です。</p> <p>(5) 伴走者として寄り添い続けること 一度きりの支援ではなく、妊娠前から子育て期まで、継続的に寄り添い、変化に応じた支援を続ける存在であることが大切です。</p> <p>(6) 国、市町村、地域資源を把握すること 地域の支援制度やサービスを理解し、必要な場面で適切につなげられるようになります。</p>	



3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

⑤ショート版動画構成（案）・字コンテ（一部抜粋）

妊婦等包括支援相談支援事業

妊婦支援給付 紹介動画（仮）



映像用台本ショート版
第1稿：2025年11月07日
Total Time: 05:35 +検討中のトビック4つ(各40秒前後)

1、前置き					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
00:23	00:23		タイトルテロップ 【出産・子育てに関する 支援制度(仮)】	(前置き) 妊娠したとき、出産したとき、そして 育児が始まったとき。嬉しいと同時に、 不安になることはありませんか？ 頼れる人がいない、お金のことが心配、 仕事と育児の両立が難しい、そんな悩み を、ひとりで抱え込まないでください。 妊娠中から出産後、そして育児期まで、 あなたとご家族を支える制度がたくさん あります。 この動画では、妊娠期と出産後に使える 支援制度を、いくつか紹介します。	人、もしくは 農人化されたキャラ クターのアニメーション またはイラストを使用。 (にわとりはあくまでも例です)
			妊娠中の悩み		
			出産後の悩み		
			子育てに関する悩み		
			妊娠中の悩み、子育ての 悩み、出産後の悩み、すべて 解決したいという気持ち		

2、産後					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
03:18	00:29		チャプターテロップ 【産後】 【産後ケア事業】	産後 【産後ケア事業】 ●赤ちゃんが生まれたけれど、体も心も つらい ●休む時間が欲しい ●育児を手伝ってほしい そんな時は、産後ケア事業を利用できます。 出産後1年以内のお母さんの心身の 回復や育児の不安を軽減できるようにサ ポートしてくれる制度です。助産師や保 健師、看護士などの専門スタッフが出産 後のお母さんと赤ちゃんをしっかり支 えます。	
			出産後、体も心も つらいという気持ち		
			出産後、休む時間 が欲しいという気持ち		
			赤ちゃんの育児を 手伝ってほしいという 気持ち		
			産後ケア事業の紹介		

1、妊娠期					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
01:24	00:16		「はじめの100か月の育ちビジョン」 【産前】 【産後】	赤ちゃんが生まれる前から、小学校に 入るまでの約100か月間。この時期は、 こどもが心も体もすくすく育つための、 とても大切な時間です。 あなたと赤ちゃんを地域全体で支えて いきます。ひとりで抱え込まず、気軽に 頼ってください。	
			「はじめの100か月の育ちビジョン」 【産前】 【産後】		
			産前・産後、体も心も つらいという気持ち		
			産前・産後、休む時間 が欲しいという気持ち		
			赤ちゃんの育児を 手伝ってほしいという 気持ち		
			産後ケア事業の紹介		

1、妊娠期					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
01:24	00:44		【孕】 【妊婦のための支援給付・妊婦等 包括支援事業】	【妊婦のための支援給付・妊婦等包括 相談支援事業】 ●妊娠したけれど、相談できる人や頼 れる場所がない そんな時は妊娠中の不安や、出産後の育 児の悩み、制度の使い方で、専門の職 員があなをサポートします。妊娠中の 体調や生活の不安、出産後の育児や家 族・パートナーとの関係、支援制度の案 内や手続きなどのサポートが受けられま す。 また、妊娠された方には国の制度の妊婦 支援給付金がお住まいの市町村から支 給されます。一人で抱え込まずに相談 できる場所があります。まずは相談してみ ましょう！	
			妊娠中、体も心も つらいという気持ち		
			妊娠中、休む時間 が欲しいという気持ち		
			赤ちゃんの育児を 手伝ってほしいという 気持ち		
			産後ケア事業の紹介		

1、妊娠期					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
01:24	00:24		チャプターテロップ 【産前】 【産後】	妊娠期 【はじめの100か月の育ちビジョン】 ●赤ちゃんや子供が安心して遊べる場所 が欲しい ●子育てに不安がある ●心も体もつらい 「はじめの100か月の育ちビジョン」は、 こどもを真ん中に置いた社会を目指して、 みんなでこどもの育ちを支えようという 考え方です。	
			「はじめの100か月の育ちビジョン」 【産前】 【産後】		
			産前・産後、体も心も つらいという気持ち		
			産前・産後、休む時間 が欲しいという気持ち		
			赤ちゃんの育児を 手伝ってほしいという 気持ち		
			産後ケア事業の紹介		



3-5. 検討委員会の開催

○第4回検討委員会の開催

【開催概要】

- 開催日：2026年1月30日（金）
- 開催時間：13:00～15:00（約2時間）
- 開催形式：オンライン
- 参加者 ※五十音順

<検討委員>・・・6名

- ・ 倉石 哲也 氏 （座長）
- ・ 鈴木 良照 氏
- ・ 関 まりか 氏
- ・ 中條 美奈子 氏
- ・ 西田 真紀 氏
- ・ 渡辺 綾夏 氏

<こども家庭庁>・・・3名

<事務局（株式会社JTB）>・・・3名

<動画制作会社>・・・1名

【議事次第】

- (1) アンケート調査票について
 - ・ 実施手法の整理
 - ・ 調査票の内容の報告
- (2) ショート版動画内容について
 - ・ ショート版動画に関する内容整理
 - ・ 委員からのコメントについて
 - ・ 動画の視聴
 - ・ 協議
- (3) ロング版動画内容について
 - ・ ロング版動画に関する報告
 - ・ 修正点の報告
 - ・ 協議
- (4) プレ面談について
 - ・ プレ面談に関する報告（実施方法など）
 - ・ 協議
- (5) 今後のスケジュールについて

3-5. 検討委員会の開催

【検討会指摘事項】

① 動画作成・構成案について（ショート版）

- テロップの漢字にふりがなを振る。ウェルビーイングとアタッチメントの注釈表示の追加。自治体と役所の言葉の混在の修正検討を行う。
- 誤字やひよこのイラストの削除。
- 小さい画面での字幕の見やすさへの配慮をする。
- 誤字・ナレーションと字幕の不一致・削除し忘れ字幕の修正、最初のナレーションと字幕のずれの調整。
- スマートフォンでの視聴を考慮した視認性向上に対応する。

② プレ面談について

- プレ面談実施時にはヒアリングする妊婦の方へ不安を与えたり、ハードルとなる点がないか確認してから実施をしてほしい。
- 妊娠初期・中期、初産婦・経産婦といった区分でヒアリングを行う。
- 人口1~3万人規模の自治体の妊婦からも意見を収集する。



3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

①第4回検討委員会次第・事業概要資料（一部抜粋）

資料1

令和7年度子ども・子育て支援調査事業

調査研究課題1-06

「妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）の効果的な実施に向けた周知方法及びフィードバック方法に関する調査研究」事業

第4回検討委員会

○開催日時：1月30日（金）13:00～15:00（約2時間）
○開催場所：オンライン開催
○参加者：※様数未定

<検討委員会>

- 倉石 賢也 様（座長）
（近畿大学大学院心理・社会福祉学部 社会福祉学科 教授）
- 鈴木 良照 様
（学芸大学 国際文化アカデミー 常務理事 法人統括本部長）
- 関 まりか 様
（株式会社MamaWell 代表取締役）
- 中條 美奈子 様
（認定NPO法人マザーズ・ネット 理事長/NPO法人子育てひろば 会長/相談員 理事）
- 西田 真紀 様
（島根県子ども発達支援センター 課長補佐）
- 渡辺 綾夏 様
（仮設地区 健康相談 母子保健係）

<事務局>

- 株式会社JTB
（委託会社）
- 黒主、福原、中西
株式会社アドバンテージ様

<オブザーバー>

- こども家庭庁 大野様、今井様、小川様

【会議資料】

資料1：第4回検討委員会次第・事業概要資料
別紙①：ショート版動画 絵コンテ
別紙②：ロング版動画 絵コンテ

【事業実施目的】

伴走型相談支援の取組を更に充実させ、すべての妊婦がより安心して出産・子育てができる相談支援環境を構築していくため、自治体の規模や組織体制に応じた効果的な仕組みや、デジタル技術を活用した効率的な事例等を分析し、こうした事例等を全国の自治体に普及させていく必要がある。

【事業実施内容】

- 伴走者のスキルアップや面談のクオリティの向上に資する先進的な取組について全国の自治体へヒアリングの実施。
- 有識者を踏まえた検討委員会を開催し、ヒアリング結果を元に利用者アンケート表と動画の内容に関する協議を行う

【事業内で作成する成果物】

- 利用者アンケート調査票の作成（自治体が活用するアンケート）
妊娠届提出時、妊娠後期、出産後（もしくは自治体独自で実施している面談後）のいずれのタイミングでも活用できるアンケート調査票の作成
- 国の事業紹介動画の作成妊婦と面談時に視聴いただく動画（ショート版動画）
- 面談者の質・クオリティ向上のための研修動画（ロング版動画）

第4回検討委員会次第

- ① アンケート調査票について
 - ・実施手法の整理
 - ・調査票の内容の報告
- ② ショート版動画内容について
 - ・ショート版動画に関する内容整理
 - ・委員からのコメントについて
 - ・動画の視聴
 - ・協議
- ③ ロング版動画内容について
 - ・ロング版動画に関する報告
 - ・修正点の報告
 - ・協議
- ④ プレ面談について
 - ・プレ面談に関する報告（実施方法など）
 - ・協議
- ⑤ 今後のスケジュールについて

① アンケート調査票について

委員の皆様からのご意見を参考にアンケート調査票（案）を確定。プレ面談では、妊婦の方およびパートナーの方に実際にアンケート調査票に回答していただき、反応を確認します。プレ面談の際に特に修正等が発生しなければ、アンケート調査票を確定とします。

【アンケート調査票についての整理】

- 各自治体には**アンケート調査票のURLを共有**します。
共有するのは所定のフォーマットとなるため、選択肢等は適宜自治体側で**修正を可能**とします。
- 同時にアンケート「**編集用マニュアル**」を配布。
編集方法や集計結果の確認の方法などをマニュアル内に記載します。
- アンケート実施の**タイミングは各自治体の判断**としますが、**原則、妊娠初期・妊娠後期・出産後の3回**及び、各自治体が自主的にやっている面談後に実施予定となります。
- 必要な場合は各自治体の判断にて印刷して紙媒体でのアンケート実施も可能となります。
- アンケート投函は**全12回**
内、記述は1問です。＜想定される回答時間＞約5分
※一般的なアンケートの回答時間は、回答者の負担を減らし回答率を高めるために5分～10分以内とされています。
- 記名は**任意**。面談者の名前も**任意**で記載

① アンケート調査票について

面談実施後アンケート

このアンケートは、妊婦の方やそのご家族・パートナーの皆さまが、安心して妊娠・出産・子育てを迎えられるよう、面談の質をより高めることを目的として実施しています。

面談の内容が充実したものとなり、次回以降も相談しやすい環境づくりにつながるよう、今回の面談を受けてのご感想や、現在感じていること、日々の中で気になっていることなどについて、率直なご意見をお聞かせください。

※上記文章は本事業キリギリまで修正の可能性があります。

問1 今回の面談は、以下のうちの時期に実施されたものですか？該当するものをお選びください。

- 妊娠初期の面談
- 妊娠後期の面談
- 産後の面談
- その他の時期の面談

問2 あなたの立場を教えてください。

- 母
- 父
- 祖父
- 祖母
- その他

問3 面談場所は、プライバシーへの配慮や衛生面、案内や表示のわかりやすさなどの面で安心できる環境だったか？

- とても安心できる環境だった
- 少し気になる点があったが、安心できた
- どちらともいえない
- あまり安心できる環境ではなかった
- 全く安心できる環境ではなかった

良かった点や改善してほしい点があれば教えてください。

① アンケート調査票について

問4 面談時間について、適切と感じましたか？

- とても短かった
- 少し短かった
- 丁度よかった
- 少し長かった
- とても長かった

希望する時間や理由を教えてください。（自由記述）

問5 面談担当者は、あなたに寄り添っていると感じましたか？（例えば、親身になって聞いてくれた、安心して説明を聞くことができた、今後も困り事を相談したいと思った。など）

- とても感じた
- 感じた
- どちらでもない
- あまり感じなかった
- 感じなかった

良かった点や改善してほしい点を教えてください。（自由記述）

問6 面談を通じてこれからの子育てのイメージや新たな気づきを得られましたか？

- とてもあった
- あった
- 少しあった
- あまりなかった
- なかった

具体的な気づきや印象に残ったことを教えてください。（自由記述）

3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

②ショート版動画絵コンテ（一部抜粋）

妊婦等包括支援相談支援事業

国の制度紹介動画



映像原稿・イメージ反映版
第2稿：2026年1月23日
Total Time: 13:58(EDまで10:54)

1、前置き					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
00:00	40'	M01		タイトル【出産・子育てに関する支援制度】(仮)	
				この動画は、妊娠された方とそのパートナー、ご家族にご覧いただくために、制作しました。	
				生まれてくるお子さんが、生涯にわたり幸せに暮らしていただけるよう、社会全体で支え、応援していくことを国の基本理念としています。	
				妊娠期から、あなたとご家族に寄り合い、さまざまな支援を行っていきます。	
				妊娠したとき、嬉しい気持ちがある一方で、先の見えない不安を抱える方が多いと思います。	
00:40					

1、前置き					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
00:40	47'	M01		元気に生まれてきてくれるだろうか。体調は大丈夫だろうか。仕事は続けられるだろうか。赤ちゃんのことは大丈夫だろうか。近くに頼れる人がなくて不安だ。	
				こうした悩みは、多くの方が同じように抱えているかもしれません。ひとりで抱え込まず、どうか声に出してください。	
				専門者が、あなたと一緒に不安を整理し、これから迎える出産・育児期を安心して過ごせるようにサポートします。	
				この動画では、妊娠期から出産後にかけて、あなたとパートナー、そしてご家族の未来を変えるために、国が定めた福利や支援制度をご紹介します。	
01:27					

1、妊娠期					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
01:27	35'	SE01 M02		チャプターテロップ【妊娠期】	
		SE02		テロップ「はじめの100か月の育ちビジョン」はじめて紹介するのは、「はじめの100か月の育ちビジョン」です。	
				妊娠期から小学1年生まで、だいたい100か月。この「はじめの100か月」は、子どもたちが人生を幸せに過ごすために、とても大切な時期です。	
				この「はじめの100か月」の時期に、大切にしたい考え方がたくさんあります。	
				その中のいくつかをご紹介します。	
02:02					

1、妊娠期					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
02:02	53'	SE02 M02		テロップ「子どもの権利と尊厳を守る「安心と信頼の環境」を築いて子どものウェルビーイングを高める」	
				まず「子どもの権利と尊厳を守る」と「安心と信頼の環境」を築いて子どものウェルビーイングを高める」です。	
				子どもは、言葉だけでなく、表情やしぐさなど、様々な形で思いや願いを表現します。発達不全な子どもがそのサインに気づいて、気持ちを受けとめる。	
				たとえば、子どもが痛くて不安なときに、そばにいて寄り添うことも、子どもの安心感につながります。	
				こうした経験の繰り返して育まれるアタッチメント、愛着が、子どもの「安心の土台」となっています。	
				「安心の土台」があるからこそ、子どもはいろいろなことに「挑戦」し、自分の世界を広げながら、成長していくことができます。	
02:55					

1、妊娠期					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
02:55	58'	SE02 M02		テロップ「妊産婦、養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする」	
				次に、「保護者、養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする」です。	
				お子さんが健やかに成長するためには、子どもたちにとって最も身近で大切な存在である保護者や養育者の皆さん自身が幸せにすることがとても大切です。	
				子育てにはたくさんのお喜びがある一方、悩みや不安もつきものです。	
				妊娠中の今の段階から、悩みや不安をどこに相談していいかわからなくなってしまうことがないよう、皆さんの力になりたいと考えています。	
				子育ては、子どもと一緒に、親も育っていくもの。	
				地域には、あなたの子育てを応援している人や場所がたくさんあります。	
				悩みや不安があれば、いつでもお住まいの自治体へ気軽に相談してください。	
03:52					



3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

③ロング版動画絵コンテ（一部抜粋）

妊婦等包括相談支援事業

妊婦等包括相談支援事業研修動画



映像用台本ロング版 絵コンテ(2)
第2稿：2025年12月08日
Total time: 19:24

チャプター0 <最初のテロップ>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
				<p>【テロップ0-1】(はじめに) (はじめに) (妊婦等包括相談支援事業の意義) (伴走者の役割と実施のポイント)</p> <p>【テロップ0-2】(妊婦等のスクリーンショット) (相談者の多様性) (抱き合う姿勢) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (精神的な不安定な方の対応)</p> <p>【テロップ0-3】(妊婦等のスクリーンショット) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性)</p> <p>【テロップ0-4】(妊婦等のスクリーンショット) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性) (産後ケアの重要性)</p>	

チャプター0 <最初のテロップ>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
00:00	00:45		<p>タイトルテロップ (妊婦等包括相談支援事業)</p> <p>基本的にはここはフリー素材イメージカット</p> <p>【テロップ】 妊婦等包括相談支援事業の意義</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p>	<p>この動画は、妊婦等包括相談支援事業の相談担当者に向けて作成した研修動画です。</p> <p>この動画ではご覧の内容をお届けします。</p> <p>この動画をご視聴いただき、相談担当者が妊婦さんとそのパートナーやご家族に寄り添う「伴走者」として、妊婦等包括相談支援事業の目的を正しく理解し、質の高い伴走型相談支援を実現することを目的としています。</p> <p>妊婦さん・パートナー・ご家族の方が安心して出産・子育てできる環境づくりには、皆さまのお力が必要です。ぜひ最後まで動画をご視聴ください。</p>	女性ナレ

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
00:45	00:27		<p>テロップ 妊婦等包括相談支援事業の意義</p> <p>基本的にはここはフリー素材イメージカット</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p>	<p>伴走型の相談支援の実施に際して、妊婦さん・パートナー・ご家族が安心して、気軽に相談してもらえる関係性を築くことが重要です。</p> <p>そのために、伴走者である皆様は、必要な指導、助言を行うとともに、妊産婦の意向や状況に寄り添い、必要な支援に繋げる役割が求められています。</p> <p>具体的には次の5点が期待されています。</p>	女性ナレ

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
01:12	00:42		<p>テロップ 伴走者の役割と実施のポイント</p> <p>基本的にはここはフリー素材イメージカット</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p>	<p>(1) 支援の入り口となり、子育てに前向きな気持ちを持つよう支えること</p> <p>相談を通じて、不安や困りごとを丁寧な受けとめ、適切な支援やサービスへとつなぐ「橋渡し役」を担います。</p> <p>そして、産後での安心や喜びを感じられるよう、前向きな気持ちをお見せします。</p> <p>(2) 妊婦・パートナー・ご家族との信頼関係を築くこと</p> <p>妊婦さんや子育て中の家族の気持ちに寄り添い、安心して不安や悩みを打ち明けられる、信頼関係を築いていきます。支援を必要とする方が「ひとりで抱え込まない」よう、必要なときにいつでも寄り添える体制を築きます。</p>	女性ナレ

チャプター1 <はじめに>					
TIME	LAP	音楽/SE	映像イメージ	ナレーション内容	備考
01:54	00:48		<p>テロップ 伴走者の役割と実施のポイント</p> <p>基本的にはここはフリー素材イメージカット</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p> <p>【テロップ】 産後ケアの重要性</p>	<p>(3) 「ひとりで頑張らなくていい」と伝えること</p> <p>妊婦さんやそのパートナーの中には、「誰にも頼れない」「人だけで子育てをしなければいけない」と思い込んでいる方も少なくありません。面談を通じて、「もっと地域に頼っていい」「支援を頼っていい」というメッセージを、伝えていただくことが大切です。</p> <p>(4) 伴走者として寄り添い続けること</p> <p>一度きりの支援ではなく、妊娠期から子育て期まで、継続的に寄り添い、変化に応じた支援を届けることが大切です。</p> <p>(5) 国、市町村、地域のサポートを把握すること</p> <p>国や地域の支援制度やサービスを理解し、必要な場面で適切につなげられるようにします。</p>	女性ナレ



3-5. 検討委員会の開催

○第5回検討委員会の開催

【開催概要】

- 開催日：2026年3月9日（月）
- 開催時間：13:00～15:00（約2時間）
- 開催形式：ハイブリッド（対面＋オンライン）
- 開催会場：ビジョンセンター虎ノ門
- 参加者 ※五十音順

<検討委員>・・・6名

- ・ 倉石 哲也 氏 （座長） オンライン参加
- ・ 鈴木 良照 氏
- ・ 関 まりか 氏
- ・ 中條 美奈子 氏
- ・ 西田 真紀 氏
- ・ 渡辺 綾夏 氏 オンライン参加

<こども家庭庁>・・・3名

<事務局（株式会社JTБ）>・・・3名

<動画制作会社>・・・1名

【議事次第】

- (1) ショート版動画について
 - ・ ショート版動画について修正点の報告
- (2) プレ面談について
 - ・ プレ面談で得られたご意見について
 - ・ プレ面談結果報告
 - ・ 協議
- (3) ロング版動画について
 - ・ 前回の検討委員会からの修正点の報告
- (4) 作成中の成果報告書の共有と次年度以降の議論

【検討会指摘事項】

- ・ プレ面談の結果報告を踏まえ、アンケート調査票・ショート版動画・ロング版動画の内容を報告。検討委員からの承諾を得て、『内容確定』とした。



3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

①第5回検討委員会次第・事業概要資料（一部抜粋）

資料1
令和7年度子ども・子育て支援調査事業
調査研究課題1-06
「妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）の効果的な実施に向けた周知方法及びフィードバック方法に関する調査研究」事業

第5回検討委員会

○開催日時：3月9日（月）13：00～15：00（約2時間）
○開催場所：ハイブリッド開催
○参加者： ※様不明
○検討委員
・倉石哲也 様（座長）（武庫川女子大学心理・社会福祉学部 社会福祉学科 教授）
・鈴木良照 様（宇佐美 国際文化アカデミー 客員理事 法人統括本部長）
・関 まりか 様（株式会社MamaWell 代表取締役）
・中條美奈子 様（認定NPO法人マミーズ・ネット 理事兼/NPO法人子育てひろば 全国連絡係 理事）
・西田真紀 様（公益財団法人子ども発達支援センター 課長補佐）
・渡辺綾夏 様（協賛区 健康推進課 子育て係 係長）

<事務局>
・株式会社JTB 黒木、福原、中西
（委託会社） 株式会社アドバンテージ様

<オブザーバー>
・子ども家庭庁 大野様、今井様、小川様

【会議資料】
資料1：第5回検討委員会次第・事業概要資料
別添資料①：アンケート調査票修正案

第5回検討委員会次第

- ①ショート版動画について
・ショート版動画について修正点の報告
- ②プレ面談について
・プレ面談で得られたご意見について
・プレ面談結果報告
・協議
- ③ロング版動画について
・前回の検討委員会からの修正点の報告
- ④作成中の成果報告書の共有と次年度以降の議論

② プレ面談について

【実施したプレ面談について】
プレ面談実施の依頼をヒアリングを実施した自治体へ依頼。
茨城県守谷市、埼玉県志木市、広島県福山市からご了承をいただき、プレ面談を実施。
別途、事務局にてモニターを募集し本事業で作成したショート版動画とアンケートを確認いただき、意見を募集。
実施結果は以下の通り。 ※良い意見：青 改善検討意見：赤
参考：すぎき意見：緑

【プレ面談実施結果】

① 茨城県 守谷市 実施日：2月18日（水）

・妊婦本人（20代）
・妊娠初期
・自治体経由での実施（プレ面談）

<動画について>
・時間は適切で、長すぎるといった負担はなかった。
・動画を視聴することで、前向きな感情を持つことができたと感じた。様々な不安を相談できる場所があり安心した。
・たくさんの方の制度が次々と紹介されるため、情報が混在して混乱しやすい。たくさんの方が、後半頃に残りにくく感じた。
・手元資料があると理解しやすい。
・QRコードなどで資料へアクセスできる仕組みがあると、動画を見ながら確認しやすい。

<アンケート調査票について>
・回答数や所要時間については特に問題なし。
・QRコードのみだと自宅でも回答しやすいが多そう
・その場で紙で答える方がやりやすいが、つわりが重い方にとっては、その場で回答するのは負担が大きそう。
紙とQRコードの両方を用意するのが望ましい。
・答えにくい質問や気になる表現は見当たらなかった。

② プレ面談について

【プレ面談まとめ】
・プレ面談・モニター含めて 9件 実施

動画について
・動画については、長さ・内容について前向き（良い）な意見が多く、追加修正は必要ないと考えている。
・動画内容に関する手元資料についての意見があったので、手元資料の作成・準備を検討する。

プレ面談の結果を踏まえて「追加修正なし」とする。
検討委員の皆様のご承認を得て、「校了」とする。

アンケート調査票について
・アンケート調査票については、数名から問2の選択肢について、指摘を受ける結果となった。修正を検討する。
・「不安を感じていることを聞き取る設問があっても良い」とのご意見を受けたため、問12の自由記載を修正を検討する。

プレ面談の結果から以下2点を修正を検討。
問2：あなたの立場を教えてください。
 母 ⇒ 妊婦本人
 父 ⇒ パートナー・夫
 祖父母
 その他

問12：ご意見等ございましたらご自由にお書きください。
面談の感想面談の感想や改善してほしい点、良かった点があれば自由にお書きください。
▶「不安を感じていることや面談について良かった点、改善してほしい点があれば自由にお書きください。」へ変更検討

④ 本事業の成果報告

【自治体ヒアリングについて】
自治体ヒアリングの実施したの下記「15」自治体である。

自治体名	ヒアリング日	自治体名	ヒアリング日
1 東京都 町田市	8/18 実施	9 広島県 呉市	10/7 実施
2 埼玉県 志木市	8/21 実施	10 広島県 福山市	10/8 実施
3 茨城県 つくば市	8/22 実施	11 茨城県 つくばみらい市	10/14 実施
4 茨城県 守谷市	8/28 実施	12 鹿児島県 阿久根市	10/21 実施
5 東京都 板橋区	9/4 実施	13 埼玉県 毛呂山町	10/22 実施
6 三重県 松阪市	9/12 実施	14 千葉県 松戸市	10/24 実施
7 奈良県 生駒市	9/16 実施	15 千葉県 富津市	11/4 実施
8 大阪府 寝屋川市	9/26 実施		

自治体ヒアリングまとめ
面談の実施状況
ヒアリングを実施した自治体においては、妊娠届出時と出産後の計2回を基本的な面談機会として設定しており、妊娠後期の面談についてはアンケート対応とする、あるいは希望者の方に実施するケースが多かった。また、出産後の面談については、4か月健診や教室に集まった機会を取り行うことで対応している自治体もあった。ガイドラインに定められた面談以外の実施については、ハイリスク妊婦や希望があった場合に実施する自治体が多かった。

面談の委託状況
地域の子育て支援拠点に相談業務を委託している自治体が増えられた。出産前から身近に相談できる場や人の存在を妊婦等に認識してもらい、安心して子育てできる環境の整備を図ることを目的としたものである。一方で、個人情報の取り扱いや各組織の役割の制約から、事務局は本行会の関係者などが対応するケースが多く、事務局の負担が課題となった。また、面談を担当する委託先職員や研修実施も、自治体の負担として課題となっていた。

委託先への情報共有
月1回程度の定例ミーティングで、レクチャー、情報・スキルの共有を行っているケースや定期的な講師を呼んで研修を実施しているケースがあった。

④ 本事業の成果報告

【次年度以降について】
事務局として考える、次年度以降に検討すべき事項は以下のとおりである。

- ① 今回難関を行わなかった言語に関して、翻訳版を作成してはどうか。 ※作成する上では、どの言語で対応すべきか調査を行う。
- ② 本事業で作成したショート版動画内で紹介した各事業を整理し、取りまとめた資料（手元資料）を作成してはどうか。
- ③ 「お金に関する支援制度に特化したショート動画」「妊娠初期の不安解消に特化したショート動画」など、テーマ別に細分化した動画を制作し、妊婦さんのニーズに合わせて選択できるようにしてはどうか。
- ④ 日本での妊婦・出産の流れや利用できる支援情報を、外国人妊婦向けにまとめた動画や資料を作成してはどうか。
- ⑤ 多様な背景を持つ妊婦への対応（多文化、LGBTQ+など）「精神的な不調を抱える妊婦への声か」「産後の支援継続のポイント」など、より専門的・具体的なテーマの研修動画を制作するのはどうか。
- ⑥ 伴走支援者が経験やノウハウを共有できるプラットフォームを構築し、支援の質の向上を図るのはどうか。
- ⑦ パートナー向け支援として、パートナーの心構えや支援制度をまとめた動画・資料を作成し、パートナー支援の充実を図るのはどうか。
- ⑧ 多言語版の手帳や支援制度を紹介する資料を作成し、自治体における外国人妊婦への支援体制を強化してはどうか。
- ⑨ SNSでのショート動画展開や自治体の広報誌など様々なチャネルを活用して動画の認知度を高めるのはどうか。
- ⑩ 動画の視聴数、アンケート回答率などから効果測定を行い、動画の更新等を行うのどうか。

【検討委員会協議事項】

- 1) ①～⑩の提案のうち、次年度以降に検討・着手すべき事項はあるか
- 2) ①～⑩の提案以外に、新たに検討すべき事項はあるか

3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

② アンケート調査票（プレ面談の意見反映版）

面談実施後アンケート

このアンケートは、妊婦の方やそのご家族・パートナーの皆さまが、安心して妊娠・出産・子育てを迎えられるよう、面談の質をより高めることを目的として実施しています。
面談の内容が充実したものととなり、次回以降も相談しやすい環境づくりにつながるよう、今回の面談を受けてのご感想や、現在感じていること、日々の中で気になっていることなどについて、率直なご意見をお聞かせください。

問1 今回の面談は、以下のうちの時期に実施されたものですか？
該当するものをお選びください。

妊娠初期の面談
 妊娠後期の面談
 産後の面談
 その他の時期の面談（ ）

問2 あなたの立場を教えてください。

母 妊婦本人
 夫 パートナー・夫
 祖父
 その他（ ）

問3 面談場所は、プライバシーへの配慮や衛生面、案内や表示のわかりやすさなどの面で安心できる環境でしたか？

とても安心できる環境だった
 少し気になる点があったが、安心できた
 どちらともいえない
 あまり安心できる環境ではなかった
 全く安心できる環境ではなかった
良かった点や改善してほしい点があれば教えてください。
()

問4 面談時間について、適切だと感じましたか？

とても短かった
 少し短かった
 丁度よかった
 少し長かった
 とても長かった
希望する時間や理由を教えてください。(自由記述)
()

問5 面談担当者は、あなたに寄り添っていると感じましたか？
(例えば、親身になって聞いてくれた、安心して説明を聞くことができた、今後も困り事を相談したいと思えた。など)

とても感じた
 感じた
 どちらでもない
 あまり感じなかった
 感じなかった
良かった点や改善してほしい点を教えてください。(自由記述)
()

問6 面談を通じてこれからの子育てのイメージや新たな気づきを得られましたか？

とてもあった
 あった
 少しあった
 あまりなかった
 まったくなかった
具体的な気づきや印象に残ったことを教えてください。(自由記述)
()

問7 面談を通じて、地域にある様々な子育て支援サービスを知りたいと思いましたか？

とても思った
 思った
 どちらともいえない
 あまり思わなかった
 まったく思わなかった

問8 面談担当者からの地域にある様々な子育て支援サービスの説明を受けて利用してみたい、興味をもった、閲覧してみたい、覗いてみたいと感じた制度や施設を教えてください。
(複数回答可)

相談支援サービス (相談機関や相談アプリ)
 産前産後ケア
 ショートステイ
 ファミリーサポート
 家事育児支援

特に興味を持った理由や期待することがあれば教えてください。(自由記述)
()

問9 今回の面談で出産・子育てに向けて安心できましたか？
(不安を感じていたことの説明があったり、相談して不安が解消できたりしましたか？)

とても安心できた (とても解消された)
 安心できた (少し解消された)
 少し安心できた (あまり解消されなかった)
 安心できなかった (まったく解消されなかった)
 安心できなくなった (不安が増した)
不安が残っている場合、その内容を教えてください。(自由記述)
()

問10 今後も面談 (相談) したいと思いましたか？

とてもそう思う
 そう思う
 どちらでもない
 あまりそう思わない
 まったくそう思わない
そのように思った理由や、今後相談したい内容があれば教えてください。(自由記述)
()

問11 今回の面談の満足度を判断して評点を付けてください。

低					高
1	2	3	4	5	
△	△	△	△	△	△

問12 ご意見等ございましたらご自由にお書きください。

面談の感想や改善してほしい点、良かった点などがあれば自由にお書きください。
ご不安に感じていることや面談について良かった点、改善してほしい点などがあれば自由に書き込んでください。

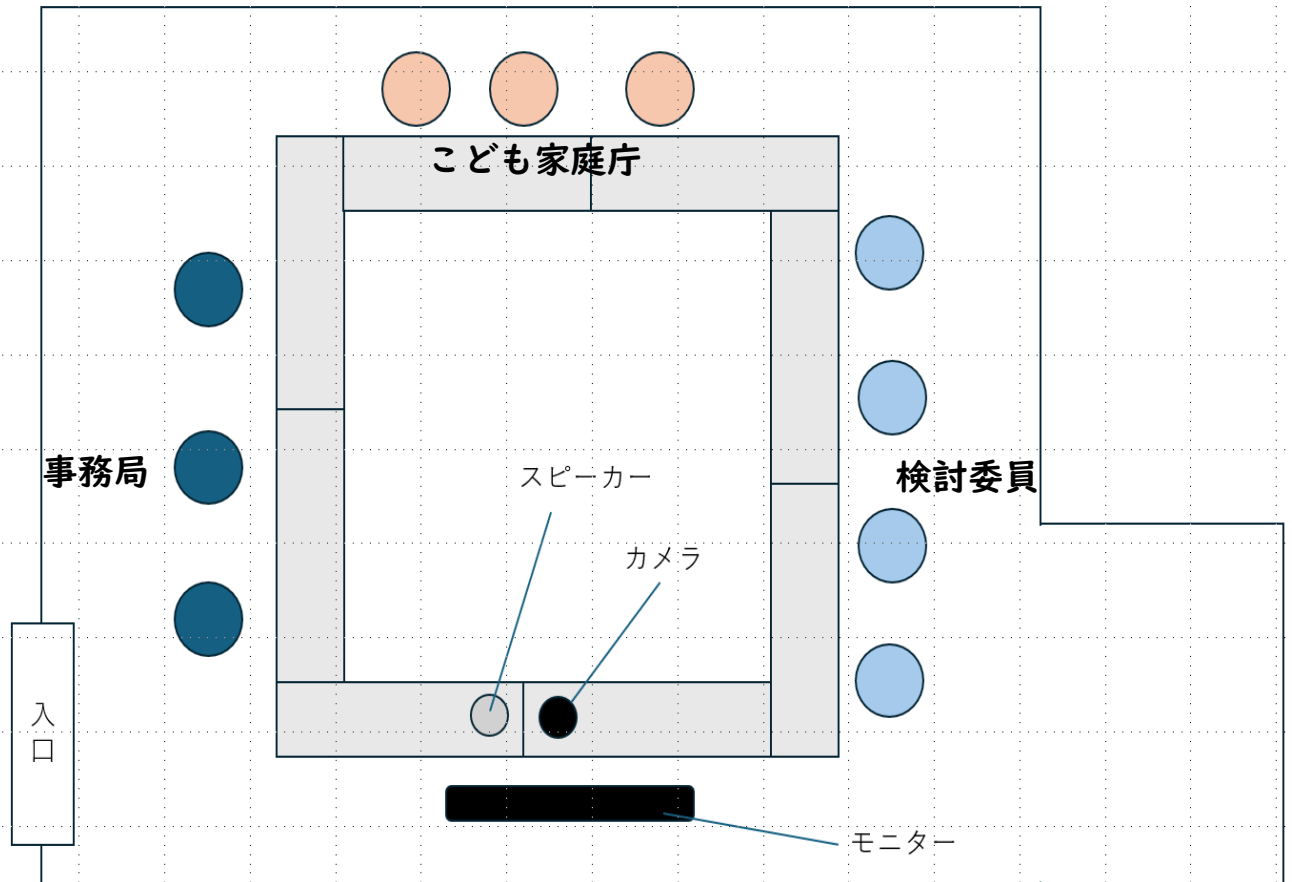
お名前 (任意)

面談担当者の名前 (任意)

3-5. 検討委員会の開催

【事務局準備資料】

①会場レイアウト



②用意した備品

- ・モニター：1台
- ・カメラ：1台
- ・スピーカー：5台
- ・電源タップ：4台
- ・配信機材：1台



04.

事業を通しての 分析・考察

4. 事業全体を通しての分析・考察

◆調査研究の概要

本調査研究においては、伴走型相談支援の取組を更に充実させ、すべての妊婦がより安心して出産・子育てができる相談支援環境を構築していくため、自治体の規模や組織体制に応じた効果的な仕組みや、デジタル技術を活用した効率的な事例等を分析し、こうした事例等を全国の自治体に普及させていくために、調査研究事業を実施した。

また、調査研究においては、次の3つの成果物を制作した。成果物の制作にあたっては、全国の自治体における効果的な支援事例に加え、自治体規模・体制・実際の状況などについて、調査・分析を進めた。

◆成果物

- ・利用者アンケート調査票（自治体が活用するアンケート）
- ・妊婦との面談時に視聴いただく動画（ショート版動画）
- ・伴走者のスキルアップ・面談のクオリティアップのための研修動画（ロング版動画）

①利用者アンケート調査票の分析結果

利用者アンケート調査票については、プレ面談にて妊婦・パートナーの方に対し、設問の内容・設問数について調査を行い、設問数や質問内容については概ね適切との評価が得られた。一方、自治体側からは「3回の全ての面談後に毎回アンケートを実施」や「集計結果を取りまとめるための業務量」の負担が指摘された。

【考察】

利用者アンケートについては、設問の内容・設問数は概ね適切との評価が得られたが、伴走者のスキル・面談のクオリティアップのためには適切にアンケートを実施し、得られた回答についてしっかりフィードバックを受け、改善に繋げていく必要がある。この点については、実際の現場で利用者アンケートを実装し、その結果を集約・分析する必要もあるだろう。また、自治体側の負担を増やさず、利用者アンケート実施・回収・分析ができる仕組み・体制づくり、デジタル技術の活用も今後検討の余地がある。このフィードバック及び改善への取組が各自治体の相談支援の質を向上させ、対象者の満足が増すことに繋がり、本事業の目的に資するものと考察する。



4. 事業全体を通しての分析・考察

②妊婦との面談時に視聴いただく動画（ショート版動画）の分析結果

ショート動画を視聴した妊婦・パートナーからは視聴時間について適切であるといったご意見や制度について網羅的に知ることができたとの高評価の回答が得られ、概ね動画の妥当性とその視聴時間について適切なものと判断したところである。

一方、制度説明を目的とした動画であることから、視聴した方の感想として、「たくさんの制度説明が続くので直ぐに理解するのは難しい」、「体調が悪い時の視聴は難しいのではないか」といったご意見をいただいたところである。この他、「制度の一覧が手元にあると理解が深まるのではないか」、「妊婦面談際に気になった制度について聞くことができるため、事前に視聴できることが望ましい」など視聴場面についてのご意見などもあった。プレ面談の人数は限られたものであったが、その中でも妊婦のおかれている状況により、様々なご意見や感想があることを改めて知ることができた。

【考察】

ショート版動画については、妊婦やパートナーにとって、複雑な制度の概要を短時間でわかりやすく伝えるツールとして一定の有用性がある。特に、面談では制度をすべて説明しきれないケースも多いことから、動画による補完は有効である。具体的な活用方策として、例えば、予め動画を視聴した状態で面談に臨むことにより、事業の概要説明の時間を個別の相談・ニーズへの対応に充てることができるのではないかと考えられる。また、伴走者にとっても国の政策を網羅的に知ることにより、当自治体との政策のギャップやニーズに応じた政策展開の在り方を検討するに資するものとなることが期待される。実務上においては、説明の負担が軽減される点が注目される。

その上で、今回制作したショート版は制度紹介を趣旨としており、妊婦の個別のニーズには十分に答えきれない内容になっている。そのため、妊婦・パートナーがより詳しい情報にアクセスしやすい情報提供のあり方が求められるのではないかと。いずれにしても、面談の在り方を含め、妊婦・パートナーに対して、こういった手法で、どのような情報提供を行っていくか、ニーズに応じた支援サービスに適切にかつ速やかに繋がるためには、どのような仕組みが適切か等については、引き続き検討が必要であると考察する。

4. 事業全体を通しての分析・考察

③ 伴走者のスキル・面談の質向上の為の研修動画（ロング版動画）

本事業内で作成したロング版動画は、伴走者の基本的な姿勢やスキルを学ぶツールとして制作したものである。動画制作にあたり実施した自治体ヒアリングにおいては、「伴走者の経験値の差により妊婦への説明内容が変わってしまう」ことや制度説明の内容にばらつきがあるなどの課題が確認された。特に、小規模自治体では研修機会が限られ、知識やスキルの更新が個々人に依存する状況がみられていた。ヒアリングで複数自治体から「研修で使いたい」などの意見もあり、動画形式の研修素材に対する期待が確認されたため、その視点も踏まえて動画の制作を進めた。完成した動画は、基礎的な情報を網羅しており、面談担当者となる専門職だけでなく、妊産婦を含め住民に対応する新規採用職員や会計年度任用職員、さらに面談を委託している場合は委託先の面談担当者にとっても、伴走型相談支援に必要なスキルや知識を学ぶことが出来る内容となっている。さらに、ショート版動画と合わせて活用することで、ベテラン職員にとっても住民対応業務の基礎、行政サービスだけではなく、日々変動していく地域資源の把握の重要性を再認識するための振り返り教材となることが期待される。

【考察】

伴走者のスキル差や制度説明の違いは、妊婦に対する相談支援の質の格差につながるものである。そのため、面談の質向上・伴走者のスキルアップに繋がるよう、視聴環境を整え、研修会等でロング版動画を投影したり、自治体内のミーティングで活用するなど、動画内容の意義や趣旨をしっかりと周知していく必要があるだろう。また、多様な伴走者への対応、例えば、外国人妊婦への支援や多言語対応についても、必要に応じて充実を図る必要がある。

本事業が行政機関の妊婦への支援として、最初の相談窓口となるため、妊娠・出産・子育て期を安心して過ごせるかは面談担当者の対応や専門性に大きく左右されると言っても過言ではない。自治体内でのばらつきを是正し、全国の自治体での相談支援の量と質の格差をなくすために、本動画を如何に活用するか、全国自治体での平準化及び事業の更なる充実に向けた取組が重要であると考察する。



4. 事業全体を通しての分析・考察

【事業全体の総括】

本調査研究では、伴走型相談支援の取組を更に充実させ、すべての妊婦がより安心して出産・子育てができる相談支援環境を構築していくため、利用者アンケート調査票（自治体が活用するアンケート）、妊婦との面談時に視聴いただく動画（ショート版動画）、伴走者の質・クオリティ向上の為の研修動画（ロング版動画）という3つの成果物を制作した。

本事業全体を通して総合的にみると、自治体の伴走型相談支援の質向上、相談支援体制の強化、効果的な相談支援の促進、面談の効率化など、本調査研究事業の目的に沿った、相談対応者のスキルアップ及び面談のクオリティアップに資する成果は得られたと考えている。

【今後の課題と展望】

伴走型相談支援に寄与する3つの成果物が完成した一方で、利用者アンケート実施体制の実装と分析、デジタル環境の整備、多様な伴走者への対応（外国人妊婦への支援等）など、今後の検討課題も明らかとなった。特に、今回の調査研究で制作した3つの成果物の活用実態や効果については、今後、調査分析を進めていくとともに、そこで明らかになる取組事例を収集・分析し、効果的かつ効率的で、相談支援の質の向上に資する優良事例を全国の自治体に広く普及させていくことが必要であると考えられる。

これらの課題は、より質の高い妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）が自治体において着実に実施され、定着し、自治体格差をなくしていくために、今後重要なテーマとなると考えられる。

そのため、上述した更なる調査研究成果の蓄積を踏まえ、本事業の質の底上げ及び平準化、更なる向上が求められる。併せて、妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）ガイドラインの見直しも必要となるだろう。

05.

今後についての提言

5. 今後についての提言

◆今後の課題

前頁「04. 事業全体を通しての分析・考察」で示した通り、今後の課題を以下と考える。

- ①利用者アンケート実施体制の実装と分析
- ②デジタル環境の整備
- ③多様な相談者への対応（外国人妊婦への支援等）

◆提言

課題①に挙げた「利用者アンケート実施体制の実装と分析」については、本事業で作成した利用者アンケート調査票を全国の自治体において実際に運用し、実際に自治体で運用した際に面談の質の向上や妊産婦の安心感の醸成にどの程度寄与するのかを把握するため、現場での実践を通じた効果検証が必要であると考え。具体的には、国が各自治体のアンケート回答データを収集・集約し、自治体規模や体制の違いを踏まえた横断的な分析を実施する体制を構築することが求められる。その際、自治体側の集計・分析業務の負担を最小化するため、デジタルツールを活用した自動集計・可視化の仕組みを国として標準化・支援することが望まれる。

また、アンケートの分析結果を伴走者のスキル向上や面談の質の向上に繋げ、どのように妊産婦に還元できるかを継続した検証が求められる。収集・分析した結果は、国が各自治体へ定期的にフィードバックし、自治体間の比較や優良事例の共有を通じて、伴走者のスキル向上・妊産婦への支援充実に還元される循環的な仕組みとして確立することが重要である。

課題②として挙げた「デジタル環境の整備」については、自治体によってデジタル技術の活用状況に大きな差があり、その結果として、業務効率や自治体が提供できる相談支援の量や質にも違いが生じている実態がうかがえた。デジタル環境の整備は自治体の方針や環境に左右される部分が大きく、自治体ごとの自主的な取組だけでは対応が難しい面もある。そのため国として、自治体におけるデジタル活用を後押しするための環境整備を段階的に進めていくことが求められるのではないかと。

まずは、デジタル技術を活用した自治体の取組や現場が抱える課題・ニーズを丁寧に調査し、自治体間の格差を把握するとともに、現状を分析したうえで、全国的な相談支援の質の向上や業務効率化を図るための措置に係る検討を進めていくことが求められる。

5. 今後についての提言

◆提言

課題③に挙げた「多様な相談者への対応」については、ヒアリングを行ったすべての自治体で外国人妊婦が増加している一方、その対応に苦慮している状況が確認された。外国人妊婦に対しては、日本で出産するために必要となる費用の説明や、母子健康手帳についてなど、基本的な情報から丁寧に伝える必要があるが、こうした対応方法については自治体が独自に模索しながら進めているのが現状である。そのため、伴走者の負担を軽減し、一定の水準で支援を提供できるよう、支援策を講じていく必要があると考える。



06.

成果物について

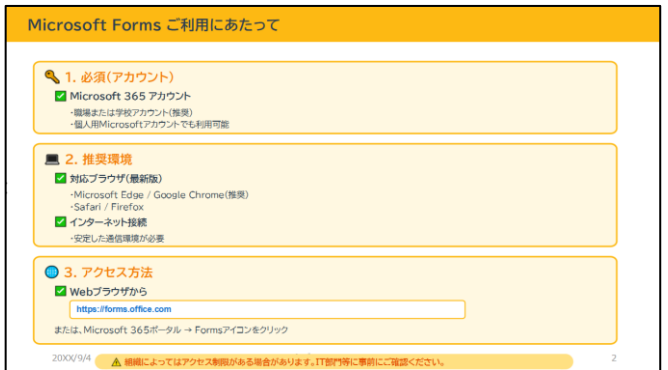
6. 成果物について

◆利用者アンケート調査票（自治体が活用するアンケート）

【1】 WebアンケートURL(Microsoft Forms)

<https://forms.office.com/r/exBQWsHVna>

【2】 Forms作成マニュアル



6. 成果物について

◆国の事業紹介動画の作成妊婦との面談時に視聴いただく動画（ショート版動画）4言語（日本語・英語・繁体字・簡体字）



日本語版



英語版



繁体字版



簡体字版



6. 成果物について

◆伴走者の質・クオリティ向上の為の研修動画（ロング版動画）



◆チラシ

妊産婦さん・パートナー・ご家族の皆さまへ

皆さまの出産・子育てを支える国の支援制度や相談場所を動画にまとめました。
不安なとき、困ったときは、お住まいの自治体まで気軽にご相談ください。

この動画では以下の制度をご紹介します。

出産前～産後	産後
<ul style="list-style-type: none">●はじめの100か月の育ちビジョン 妊婦期から小学1年生ごろまでの時期に大切にしたい考え方をまとめています。●妊婦等包括相談支援事業 妊婦から出産後まで、面談担当者が継続して不安や困りごとをサポートします。●妊婦のための支援給付 妊婦された方を対象とした支援給付制度です。 ※流産・死産等の場合も支給の対象になります。	<ul style="list-style-type: none">●産後ケア事業 専門職がからだと心のケア、赤ちゃんのお世話の仕方や授乳方法などについてサポートします。●子育て短期支援事業 急な予定が入ったときやからだの休息のためにお子さまを一時的にお預かりする制度です。●子育て世帯訪問支援事業 支援員がご家庭を訪問し、家事や育児のサポートをする制度です。●ファミリーサポートセンター事業 地域の中でどもの預かりや送迎などを助け合う仕組みです。●こども誰でも通園制度 お子さまの社会性を育むために、未就園児が保育施設を一定時間まで利用できる制度です。●地域子育て支援拠点事業 地域の施設にて子育て中の親子が気軽に集い、交流や相談ができる場を提供しています。●地域子育て相談機関 地域の保育所や児童館などを活用し、妊婦さんや子育て中の方が気軽に相談できる場所です。

動画の視聴はこちらから

自治体問い合わせ先

動画QRコード



07.

參考資料

7. 参考資料

◆本事業実施のために活用した参考資料一覧 ※順不同

○こども家庭庁「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）」

https://www.cfa.go.jp/policies/kodomo_sodachi

○こども家庭庁「こども・子育て応援MAP」

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/fb115de8-988b-40d4-8f67-b82321a39daf/055c6ecb/20250314_resources_kodomo-mirai_11.pdf

○こども家庭庁「こども未来戦略」

<https://www.cfa.go.jp/resources/strategy>

○こども家庭庁「ひとり親家庭の暮らし応援サイト「あなたの支え」」

<https://anata-no-sasae.jp/>

○こども家庭庁「障害児支援」 <https://www.cfa.go.jp/policies/shougaijishien/>

○こども家庭庁「共働き・子育てを応援」

<https://www.cfa.go.jp/resources/strategy/tomonioen>

○こども家庭庁「よくわかる「子ども・子育て支援新制度」」

<https://www.cfa.go.jp/policies/kokoseido/sukusuku/>

○こども家庭庁「妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針普及啓発用リーフレット」

https://sukoyaka21.cfa.go.jp/media/tools/s02_nin_lea001.pdf

○こども家庭庁「健やかなからだづくりと食生活BOOK

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/a29a9bee-4d29-482d-a63b-5f9cb8ea0aa2/fb21b2b0/20230401_policies_boshihoken_shokuji_04.pdf

○こども家庭庁「母子健康手帳情報支援サイト」

<https://mchbook.cfa.go.jp/>

○こども家庭庁「子どもを亡くした家族への支援の手引き」

https://sukoyaka21.cfa.go.jp/media/tools/s01_huni_tebi006.pdf

○こども家庭庁「妊婦等包括相談支援事業（伴走型相談支援）ガイドラインについて」

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/be80930d-51d1-4084-aa3e-b80930646538/bc15aeb6/20250512_policies_shussan-kosodate_68.pdf

